

人間関係力を育む学級経営のあり方

～特別支援の必要な生徒への支援の工夫を通して～

沖縄市立沖縄東中学校

教諭 伊波 静恵

I テーマ設定の理由

現在、教育現場において、LD、ADHD、高機能自閉症などといった発達障がいにより、支援が必要な生徒が学級に2～3人いると言われている。

中教審答申の「特別支援教育」の理念の中に、『障害のある生徒の自立や社会参加に向けた支援という視点から、一人一人の教育的ニーズを把握し持てる力を高め、困難を改善、克服するための指導・支援を行う。』とまとめられている。教育現場の中で支援の必要な生徒を確認し、対応をしていくことが大きく望まれているのである。

これまでに、生徒と関わる中で、発達障がいと感じ取れる生徒や、発達障がいの判断はできないが、他人とのコミュニケーションが上手くとれない、注意力を継続できない、聞いた事を覚えるのが難しい等の「困難さ」を抱えていると思われる生徒との出会いが多々あった。しかし、十分な支援をするまでには至らなかった。

本校においても、特別支援の必要な生徒が在籍している。しかし、教師の実態として、多くの教師が、周囲との違いを感じ、支援をしたいと思いつつも十分に教育的支援を図ることができずに課題意識をつのらせている。

十分な支援が図れない原因として、発達障がいであるということの明確な確認方法がわからない、発達障がいの特性が把握できず、適切な対応がとれていない、通常学級において、一斉授業を進めながら、個への対応をとるということの難しさ、などが挙げられる。

また、支援をする上で、課題の1つとなっているのが、学級生徒間の人間関係の育成の困難さである。教師がある程度の発達障がいに対する判断

ができ、支援をしたいと考えていても、生徒間のトラブルが生じると、その場のトラブル回避の対応に追われ、支援まで手が回らないことも多い。

「困難さ」を抱える生徒にとって生徒間の人間関係は、学校生活のすべてに関わるもので、自己の能力を伸ばす以前の基本的な土台になると考える。支援を充実させるためには、その基礎となる生徒間の人間関係をより良くする学級経営の工夫が必要である。

発達障がいや「困難さ」のある生徒に限らず、すべての生徒にとって、これからの社会において、より良く生きるために必要となるのが社会性や人間関係力である。より良い人間関係が成り立った上で「良さ」の伸長や「困難さ」の改善が図られさらには、将来、夢や希望を持って目標を達成させるといった自己実現が可能になる。自己実現に向けて大切なことは、集団の中でお互いを尊重し合い、自尊心を高め、段階的に、自己の能力を引き出し、自ら追求していくことだと考える。

最終的には社会の中で、自己実現を果たすことを目標に、学級という集団の中で、自己実現の基盤となる社会性や人間関係力を向上させ、自他尊重の心を養い、「困難さ」の改善や「良さ」の伸長といった自己の能力の向上につながる支援を行っていきたい。

以上のことから、本研究では、現在、課題となっている発達障がいや「困難さ」の実態把握を効果的に行うためのアンケートや教育相談、保護者や職員との連携を工夫し、さらに、人間関係力を育むための学級経営の工夫を図ることで、自己実現に向かう姿勢やより良い支援につなげられるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

- 自己を理解し、自信をもって前向きに課題を克服する努力ができる生徒。
- 他者を理解し、お互いを尊重しながら、協力できる生徒。

III 研究目標

人間関係力を育む学級経営のあり方と効果的な実態把握・連携の工夫

IV 研究仮説

1 基本仮説

生徒の実態把握の仕方や教師間・保護者との連携を工夫し、人間関係をより良くする学級活動に活かすことにより、自他尊重の心や自己実現に向かう姿勢を育むことができるであろう。

2 具体仮説

- (1) 教師のアンケート調査を行い、特別支援や教育相談の理論研究を深めることにより、支援の方向性が明確になるであろう。
- (2) 生徒の実態調査を実施・分析し、教育相談や保護者・教師間の連携を工夫することにより、発達障がいや学級間の人間関係の実態把握ができ、支援がとれるであろう。
- (3) 自己理解につながる学級活動や自己実現に向かう段階的な支援を取り入れることにより、違いを受け入れ尊重し合う人間関係力を育み、自己の力で目標を達成させる姿勢を養うことができるであろう。

V 研究構想図

次ページ

VI 研究内容

1 研究内容 1

(1) 教師のアンケート調査

① 調査目的

教師の特別支援に関する実態調査を行い、本研究の資料として役立つ。

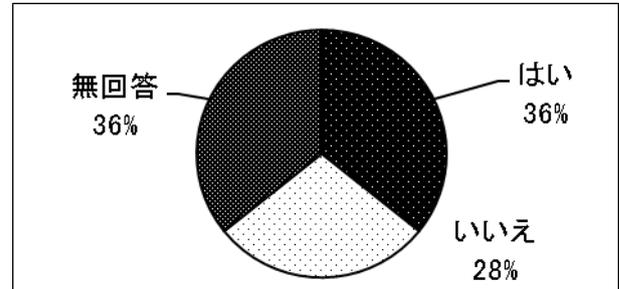
② 調査方法

- 質問紙法
- 調査日：平成 20 年 5 月 28 日

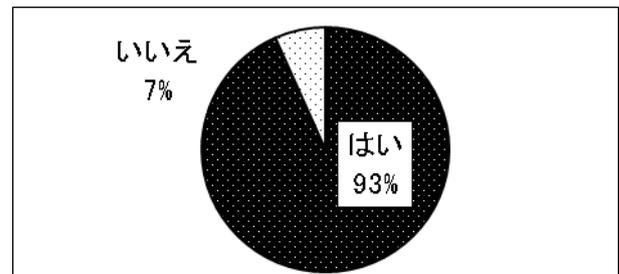
○ 調査対象：沖縄東中学校教員 15 名

③ 調査の結果と分析・考察

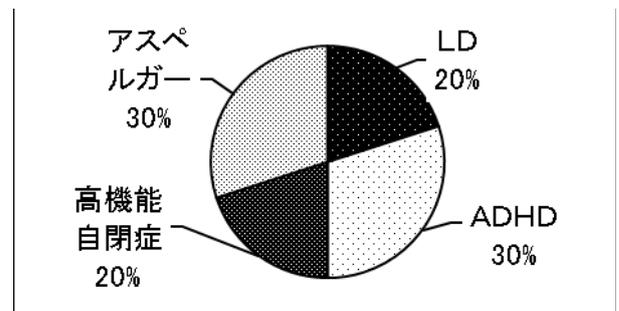
質問 1 学級にもしかして（軽度）発達障がいではないか？と思われる生徒はいますか。[担任のみ]



質問 2 過去に（軽度）発達障がいと思われる生徒と担任として、または教科指導等で関わったことはありますか？



質問 3 質問 2 ではいの方で診断名が分かる場合診断名を記入してください。



質問 4 周りの生徒と比べてどのような違いを感じましたか。

- 授業中、集中力が低い、落ち着かない（席を立つ）
- まわりと一緒に同じことができないときがある
- 行動や感情をコントロールできない（思い通りにいかない、パニックになる）
- 耳からの情報が入りにくい
- 忘れ物が多い、物を失くす
- 同じことを何度も注意される
- 目を合わせて会話ができない など

V 研究構想図

社会的背景

障がいのある生徒の自立や社会参加に向けた支援の必要性が高まり、一人一人の教育的ニーズを把握し、通常学級での支援技術の向上が期待されている。

県教育施策

- 特別支援教育における学校全体の協力体制づくりの推進
- 交流及び共同学習の充実

市教育施策

- 生徒の特性に応じた教育を充実し持てる力を高め自立・社会参加が可能となるように支援する。

学校教育目標

- 真理を求め自ら学ぶ生徒
- 心豊かで思いやりのある生徒
- 心身を鍛えたくましく生きる生徒

家庭・地域の実態

- 地域や家庭でのコミュニケーションの機会が減少しており、人間関係力を育む体験が少なくなっている。

生徒の実態

- 発達障がいによる学級不応や学力の停滞のある生徒が在籍していることが予想される。生徒間の相互理解が必要とされる。

教師の実態

- 特別支援に関する課題意識が高い。実態把握と支援体制の工夫が必要とされる。

目指す生徒像

- 自己を理解し、自信をもって前向きに課題を克服する努力ができる生徒
- 他者を理解し、お互いを尊重しながら、協力できる生徒

研究テーマ

人間関係力を育む学級経営のあり方

～特別支援の必要な生徒への支援の工夫を通して～

研究目標

人間関係力を育む学級経営のあり方と効果的な実態把握・連携の工夫

研究の基本仮説

生徒の実態把握の仕方や教師間・保護者との連携を工夫し、人間関係をより良くする学級活動に活かすことにより、自他尊重の心や自己実現に向かう姿勢を育むことができるであろう。

具体仮説 1

教師のアンケート調査を行い、特別支援や教育相談の理論研究を深めることにより、支援の方向性が明確になるであろう。

研究内容 1

- 教師のアンケート調査
- 特別支援・教育相談に関する理論研究

具体仮説 2

生徒の実態調査を実施・分析し、教育相談や保護者・教師間の連携を工夫することにより、発達障がいや学級間の人間関係の実態把握ができ、支援がとれるであろう。

研究内容 2

- 生徒の実態把握と分析
- 保護者・職員との連携と教育相談による個別の実態把握と支援方法の工夫

具体仮説 3

自他理解につながる学級活動や自己実現に向かう段階的な支援を取り入れることにより、違いを受け入れ尊重し合う人間関係力を育み、自己の力で目標を達成させる姿勢を養うことができるであろう。

研究内容 3

- ソーシャルスキルトレーニング・構成的グループエンカウンターなどを取り入れた社会性・人間関係力を育む学級活動と自己実現に向かう姿勢を養う学級活動の工夫、計画、実施

検証授業の計画・実践・分析・考察

研究のまとめ・研究成果と今後の課題

【質問1・2・3・4の考察】

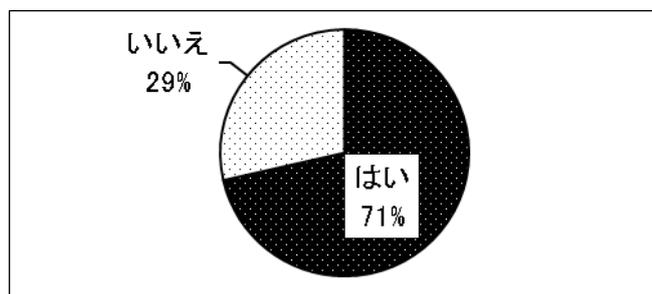
新学年度が始まって約2カ月経過後のアンケート実施である。

無回答が36%と多く、担任としては、生徒の個性や学級の実態が見えはじめてくるものの、それぞれの「困難さ」や発達障がいではないかと感じる程の「違い」の判断までは至っていないことが考えられる。特に中学校は、教科担任制で学級担任の関わる時間が限られており、生徒個々を様々な面から見て判断するためには、教師間の連携を深める必要がある。また、発達障がいと思われる生徒と過去に関わったことがあるかという質問には、93%というほとんどの教師が「はい」と答えおり、診断名がはっきり分かる生徒と1度でも関わったことのある教師は、7割で、ADHD・LD・アスペルガー・高機能自閉症が挙げられた。後のアンケート考察で触れるが、毎年関わっていると予想される発達障がいを持つ生徒それぞれの判断は難しいが、時間が経過するに従って質問4のような「違い」はほとんどの教師が感じることができるとは思えないか。

「違い」から「困難さ」の把握につなげることで支援の方法も見えてくると思うので、早期に「違い」を確認する手立てとしての支援体制づくりや「困難さ」を把握する教育相談の工夫を行う必要がある。

質問5 質問2ではいの方

何らかの支援(対応)をしましたか。



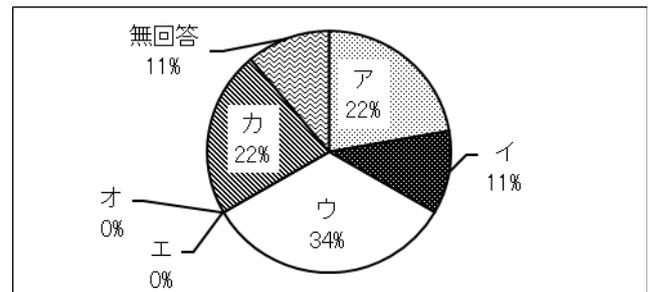
質問6 どのような支援(対応)をしましたか。

- 視覚的な情報もあわせて提示
- スモールステップに分けて1つずつ技能を習得できるようにした
- 教科書・ノートを保管する場所を指定した
- 手帳に連絡事項を記入した

- 専門機関と連絡をとった
- 席の配置(前に座らせる)
- 生徒指導の時は、1人別にしてなるべく単純に、何が悪いのか明確にした
- 親への密な連絡
- テスト中となりについて問題文を読み聞かせた

質問7 質問5で「いいえ」の方

支援ができなかった理由を教えてください。



選択項目

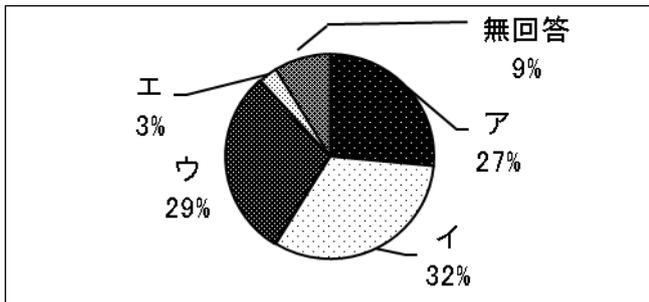
- ア、発達障がいと判断(把握)できなかった
- イ、対応の仕方が分からなかった
- ウ、一斉授業の中で個への対応が難しかった
- エ、本人の理解が得られなかった
- オ、保護者の理解が得られなかった
- カ、その他

【質問5・6・7の考察】

発達障がいと思われる生徒と関わったことのある教師の7割が何らかの支援をしていることがわかった。普段の教育活動の中での、十分な支援をすることの難しさをよく耳にするが、先生方なりに生徒の状況を理解し、できる限り工夫をし、個に対応した支援を行っていることが分かった。

支援ができなかった理由として一斉授業の中で個への対応や判断の難しさや対応の仕方がわからなかったことが多く挙げられた。ある程度の判断ができないと、対応につながらないので、より良い支援を行うためには、効果的な判断(把握)の方法を考える必要がある。また、一斉授業の中で、特別に個別の支援を行うことは、対応が困難な面が大きい。解決策としては「個」にとってもすべての生徒にとっても理解しやすい内容で一斉授業の中で行える教科指導の工夫が必要である。

質問8 発達障がいと判断できる生徒を受け持ち、支援をする時、必要とされることは何ですか。



選択項目

- ア, 発達障がいについて理解したい
- イ, 発達障がいへの対応の仕方を学びたい
- ウ, 関わる職員と共通理解を図りたい (支援体制づくり)
- エ, その他

質問9 その他で特別支援や発達障がいについての意見があれば書いてください。

- 周りの生徒と発達障がいの生徒との良い関係づくりが難しい。また、何かトラブルがあった時、担任として、片方の側 (味方) につくのではなく、両方をうまくまとめたのですが、どうしても、周りの生徒に我慢してもらうことが多い。しかし、その時、周りの生徒としては「何でアイツだけ?!」という感じが残ってストレスになっているかもしれません。だからこそ、周りの生徒も何かしらの形で違いがある生徒とうまくつきあっていく方法を学ばせたい。

【質問8・9の考察】

特別支援に関する教師のニーズとして、発達障がいの理解や対応、支援体制づくりが大きく挙げられており、約7割の教師がア、イ、ウの3つともに選択していた。普段の教育活動の中での特別支援に関する教師の課題意識の高さがうかがえる。

特別支援についての意見の中でも、早期の「判断」や「支援体制」の必要性を感じる。また、生徒間の良い人間関係をつくることや、教師として「個」や「周囲」と関わる中での指導方法の違いによる難しさが、現場で起こっている実際問題として、担任が苦慮していることがわかった。教師との関わりは、限られた時間の中であるが、生徒間の関係は学校生活すべてにおけるものである。本人にとっても、教師にとっても、「困難さ」の改善や自己の能

力の向上を図るためには、生徒間のより良い人間関係づくりが必要になってくる。

【全体の考察】

今回のアンケートを通して、以下の内容の必要性を感じた。また、多くの「違い」や「対応」等の意見は、これからの支援につなげるための参考になるので、支援体制の中で情報交換をするためにも、先生方に還元して利用していきたい。

- ☆生徒間の人間関係づくり
- ☆発達障がいの理解
- ☆発達障がいと対処方法の把握
- ☆支援体制づくり
- ☆一斉授業の中での支援の方法

早い時期にある程度の「困難さ」の把握ができる、担任としてできる支援の幅も広がる。教師間の支援体制づくりが整えば、様々な角度からの生徒の見方や情報交換、共通理解が図られ、「教科担任制」による指導が多面的な生徒理解を深め、個に応じた支援につながるのではないかと。

本研究においては、支援の基礎となる生徒間の人間関係を中心に、教師の実態も考慮し、上記した項目に関する内容を盛り込み、テーマに迫っていきたい。

(2) 特別支援・教育相談に関する理論研究

① 通常学級における特別支援教育の捉え方

発達障がいにより支援が必要な生徒が学級に2～3人いると言われている現在、教師の率直な意見としては、ヘルパー等の支援者の増加を求めているが、実際問題としては厳しい状況である。これからの特別支援教育は「個別指導」ではなく、「通常学級における特別支援」が求められており、学級担任は、一斉授業の中での個人への配慮や、きめ細やかな指導が求められている。

1人の教師が、特別支援の必要な生徒だけに目を向けることは一斉授業の中では困難である。しかし、発想を変えることで教師や生徒にとって良い効果をもたらすのではないかと考える。

通常学級における学級経営や授業づくりの方向性として次のように捉えていきたい。

特別支援の必要な生徒には“ないと困る”支援であり、
どの生徒にも“あると助かる”支援

「特別」な支援ではなく、どの生徒にも役立つ支援

② 学級担任としての特別支援の基本スキル

ア 学級経営

『通常学級の特別支援 佐藤眞二著より引用』

○ 社会性・人間関係力を高める学級経営

発達障がいや「困難さ」のある生徒の中には、人間関係でトラブルになるケースが多い。本人はもちろん、周りの生徒も社会性や人間関係力を育むことが大切であり、学校現場においてはソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターなどの体験的活動を取り入れることも有効である。

イ 生徒との信頼関係づくり

生活上・学習上の「困難さ」は、身勝手、わがまま、努力不足等と決めつけず、生徒の内なる声に耳を傾け、共感し、寄り添うことが大切である。発達障がいは、脳の機能に何らかの障がいが発生していると言われている。その脳のコントロールのためには、居心地のよさや褒める、認められるといったプラスの関わり方が大切で、不快と覚えることは、状況を悪化させる。

「困難さ」は本人にしか分からないやりづらさがあり、改善したくても上手くいかないのが、叱責することで、自信をなくし、自己を向上させるといった方向とは反対に向いてしまう。指導が必要になる場面では、特性を理解した上で、寄り添った指導が望まれる。「できないこと」に目を向けるのではなく、「できること」に目を向け、「困った生徒」ではなく、「困っている生徒」と捉え自信や自尊感情を高め、少しずつ改善につなげる必要がある。

ウ 生徒個々の状況の判断

「障がい」の明確化ではなく「支援方法」を明確化するための「判断」をしていきたい。

(ア) 保護者との連携

支援を行う上で、教師は、発達障がいや「困難さ」のある生徒の理解を深め、そのことが「判断

につながり、さらに、より良い支援ができるものとする。ここでいう「判断」は「診断」ではない。教師は医師ではないので「診断」することはできない。私も以前、ヘルパー等の採用や生徒の進学における手続きで、医療施設等での「診断」を本人や保護者に説得せざるをえない状況があり、苦慮した経験がある。この場合、相手の立場に立ちしっかり信頼関係を作った上で、あせらず慎重に進めなくてはいけない。保護者の理解には時間が必要である。本人や保護者との関係が崩れると、支援につなげるところか、不信感からくるトラブルの対応に追われ、状況の悪化を招くことにもなる。

1年生という早い段階で本人や保護者との連携を取ることが望ましい。話し方としても“教師も周りの生徒も迷惑して困っている”というニュアンスで伝わってしまうと、いつの間にか、“子どもの困難さを保護者に納得させる”相談機関に行ってもらおう”ことそのものが目的化し、不信感が高まってしまふ。一番困っているのは本人で、それを支える保護者も、様々な面で不安やストレスを感じ、悩んでいることが多い。

初めに、生徒の良さを伝えることから始めたい。納得や了解を迫るのではなく、保護者が置かれている状況を踏まえ、傾聴・ねぎらいの姿勢で、期待や希望の共有で信頼関係を築いていく必要がある。

信頼関係ができたところで、理想像を求めすぎず、確実にできる内容を提案し、学校でも家庭でもできたことを「褒める」ことで、本人・保護者ともに前向きな姿勢で、改善や自己の能力の向上につなげていく。

(イ) 教育相談の充実

② カウンセリングマインドを活かした教育相談

「困難さ」のある生徒を支え、より良い方向に導く「支援」に必要なのが教師の「カウンセリングマインド」での対応である。これは、本人の対応だけではなく、保護者やすべての生徒との信頼関係づくりや人間関係づくりに必要になってくる。「カウンセリングマインド」の基本は、相手を受け入れることである。「困難さ」があり、指導の多い生徒に対しても、一つの人格として受け入れることが大切である。

本人や保護者に対してカウンセラーとしての役割

も持つ学級担任だが、「困難さ」そのものを取り除く専門的な技術をもっているのではない。『カウンセラーにできることはクライアントを治すのではなく、鏡を差し出すことで、正しい道を教えるのではなく、クライアントが自分を受容し病を克服できるよう手助けをすること』であり、最終的には生徒自身の力で改善・向上する姿勢を持ち、教師はその手助けをするという姿勢で対応することが大切である。

このような対応のもと、子どもは、教師や保護者、周りの生徒から認められることで、自己を受容し、自己肯定感を高めていくことができる。教育相談や学級経営にカウンセリングマインドを活かすことで、自ら「困難さ」を改善・克服したいという気持ちや、向上していく力を高めていくことができる。さらに、これから社会人となっても自分を支え、前向きに自己実現に向かう力となり、今だけではなく、先を見通した力を育むことができると思う。

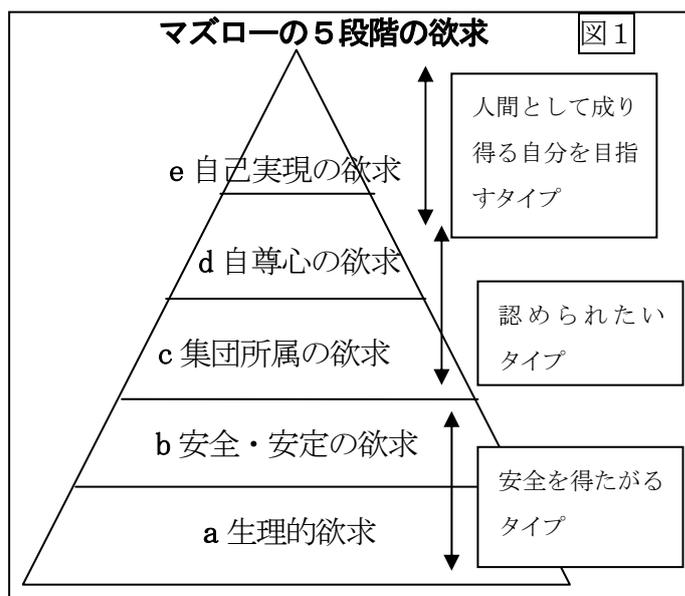
④ マズローの5段階の欲求を参考にした教育相談

学級には、同じ年齢（生活年齢＝実年齢）の生徒が在籍する。しかし、個性や育った環境も違っており、発達年齢（精神年齢）は違ってくる。

生徒が、何につまずいていて、どんな欲求があるかといった今の状況を判断して、基本的な部分から改善していかなければならないと考える。支援の必要あるなしに関わらず、日常の生活ができていない生徒に自己実現などの大きな目標を設定させることは難しい。一人一人違うのなら、「違い」を判断して、マズローの5段階の欲求(図1参照)を参考に、それぞれの状況に合わせ目標を設定し、次の段階へステップアップさせるといった方法で教育相談の充実を図りたい。

アブラハム・マズローは欲求を5段階に分け、人はそれぞれ下位の欲求が満たされると、その上の欲求を満たすという欲求段階説を唱えた。

タイプ	満たされていない欲求
安全を得たがるタイプ	a, b
認められたいタイプ	c, d
人間として成り得る自分を目指すタイプ	d, e



- a 生理的欲求
空気、水、食べ物、睡眠など人が生きていく上で欠かせない基本的な欲求で、これが満たされていないと病気になったり、苛立ち、不快感を与える。
- b 安全・安定の欲求
生理的欲求と同じく人間が生きていく上で根源的な欲求で、安全な環境と安定を求める欲求。安全・安定が得られていないと、その危険を回避し、安全を確保するかに必死になり、それ以外考えられない。
- c 集団所属の欲求
他人に理解され、受け入れられたいと願う欲求で、家族や学級などの集団に所属することを求める。
- d 自尊心の欲求
他人からの評価と尊敬を求める欲求で、自尊心を満たすことを望み、他者からの注目、評価を求める。
- e 自己実現の欲求
能力、可能性を発揮し、創造的活動や自己の成長を願う（あるべき自分になりたい）欲求で、自由・個性・楽しみを求め、充実感と心の豊かさを求める。

⑤ 解決志向アプローチを取り入れた教育相談

解決志向アプローチは、今問題になっていることに目を向けるのではなく、解決に目を向けるカウンセリングの方法である。「相談者の自信をつける」「自ら解決策を見出す」という意味でもとても有効的な相談の方法だと考える。

- a 解決志向アプローチの原理
- (a) 解決は、生徒のリソース（能力・資質・資源）からでてくる。
 - (b) 生徒は皆、変化に対応する力をもっている。
 - (c) 悪いところは見ない。
問題にではなく解決に焦点を当てる。
 - (d) 良いところを探す。（リソース）
個性、特性、サポートを発見する。
 - (e) 例外を探す。
できているところを探す。可能性にゼロはない。
 - (f) 生徒をエンパワメントする。（ねぎらい・称賛）

b 有益な質問

- (a) どうなりたい？
- (b) うまくいっていることは？
- (c) どうやって？（なぜ？ではなく）

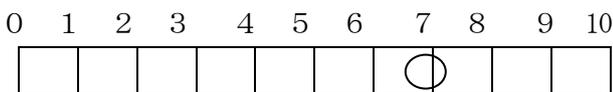
「はい」「いいえ」の2者択一ではなく、考えることで話が引き出されるような、また、話したくなるように、プラスに目を向けた質問をする。

c 解決志向アプローチのツール（道具）

○スケーリングクエスチョン

下図のように1から10まで書かれた目盛を準備し、「最低が0で最高が10、今どれくらい？」と質問するようなスケール（目盛）を使った質問の方法。

この方法を使うことにより、分かりやすく現在の努力が見え、目標も設定できる。



上図のように今の自分の状況に○をつけ、以下のような質問をする。

- ◇0でないのは、どうやっているから？
- ◇現在より1だけアップするためには、何が必要だと思いますか？
- ◇1アップした時には、どんなことが違ってきますか？

d 解決志向アプローチの良さ

- (a) 相手の悪いところは見ないで、良いところしか見ないので、相手もこちらも気が楽に取り組める。（例外探し）
- (b) 相手の持っている力を引き出して利用するの

で、こちらが楽に対応できる。（リソース利用）

- (c) 相手が自分の力に気づいて自信をつけ、元気を出していく。（エンパワメント）
- (d) こちらから言うのではなく、自分で考えて行動していく。（自発性）
- (e) エンパワメントのポイント
 - 承認 今を認める
 - 称賛 できていることを褒める
 - 資源 良いところを探す

2 研究内容2

(1) 生徒の実態把握と分析

ア 調査目的

生徒の実態調査を行い、分析し、発達障がいや学級間の人間関係を把握し、教育相談や支援に活かす。

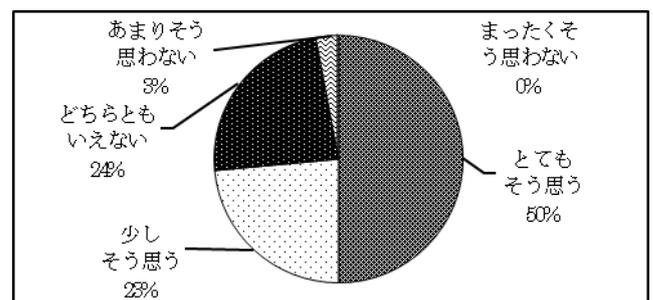
イ 調査方法

- 質問紙法
- 調査日：平成20年5月21日・23日
- 調査対象：沖縄東中学校1年2組 35名

ウ 調査の結果と分析・考察

①Q-Uアンケートによる実態調査と分析

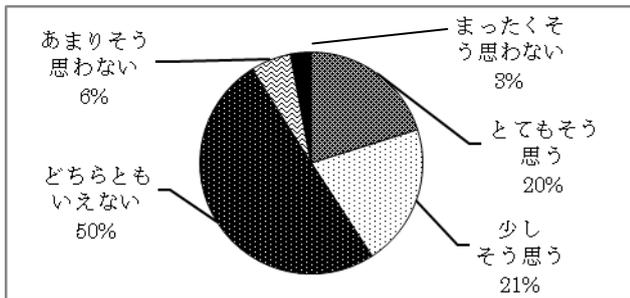
質問1 クラスの中にいると、ほっとしたり、明るい気分になったりする。



「とてもそう思う」と「少しそう思う」があわせて73%と多くの生徒が学級に居心地の良さを感じている。本学級の雰囲気を見ても、明るく楽しく過ごしている様子うかがえる。しかし「どちらともいえない」や「あまりそう思わない」と居心地の良さを感じていない生徒も27%おり、原因となることを確認し、改善することで、学級の雰囲気をさら

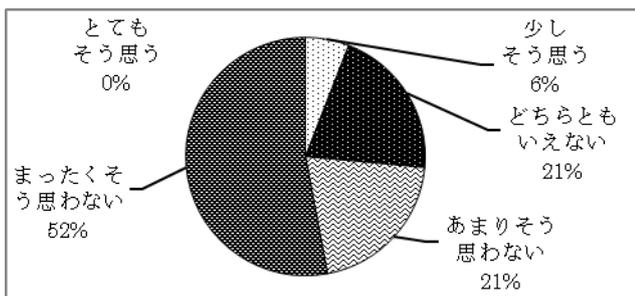
に高め、個人の能力の向上につなげていきたい。

質問2 自分もクラスに貢献していると思う。

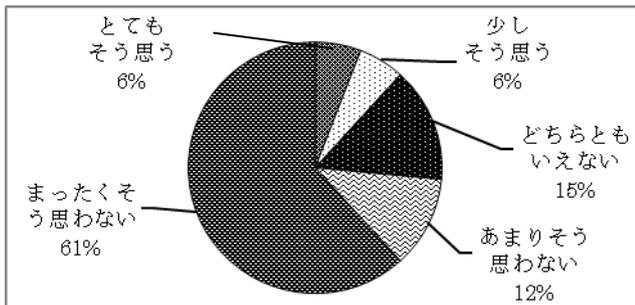


「とてもそう思う」や「少しそう思う」と自己を肯定的にとらえている生徒は 41%に対し、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と否定的にとらえている生徒が 9%、「どちらともいえない」と肯定も否定もしていない生徒が 50%と半数である。自己肯定感を高める学級経営の必要性を感じる。

質問3 クラスの中で浮いていると感じることがある。



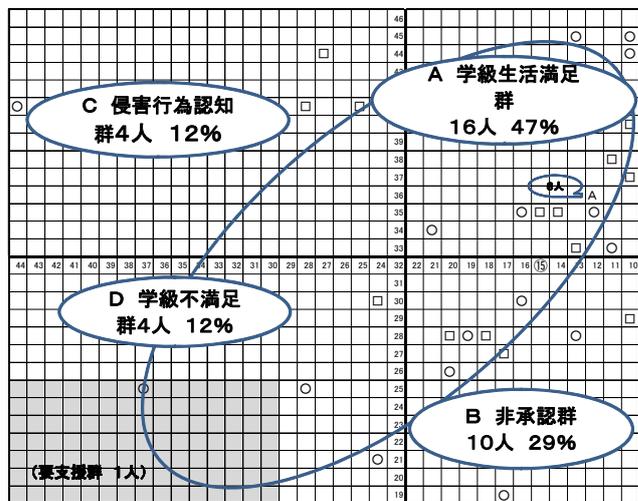
質問4 周りの目が気になって不安や緊張を覚えることがある。



「クラスの中で浮いていると感じることがある」という質問では、「少しそう思う」という生徒が 6%いた。また、「周りの目が気になって不安や緊張を覚えることがある」という質問に関しても「とてもそう思う」と「少しそう思う」が 12%おり、学級間の友人関係が上手くいっていない生徒がいることが伺える。実際、男子の中では、軽はずみな発言があったり、女子の中でも、友人関係のトラブルが発

生していた。相手の立場にたった言動を考えさせる等よりよい人間関係を育む学級経営が必要になる。

○学級満足度尺度結果のまとめ



○女子 □男子

A学級生活満足群の中に入っている生徒は、学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている生徒であり、47%と全国平均の 35%と比べてみても高い数値で、全体的に活気のある学級と言える。

B非承認群の中に入っている生徒は、いじめや悪ふざけを受けてはいないが、学級内で認められる事が少ない生徒であり、29%と全国平均 15%より高い。「質問2」のアンケート結果と同様に、自尊心や自己肯定感を高める指導の工夫が必要である。

C侵害行為認知群の中に入っている生徒は、いじめや悪ふざけを受けているか、他の生徒とのトラブルがある可能性が高い生徒であり、12%（全国平均 17%）を示し、この4人の生徒に関しては、トラブルの把握と改善のための手立てが必要である。

D学級不満足群の中に入っている生徒は、耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強く、要支援群の生徒はその傾向がさらに強い生徒であり、12%（全国平均 33%）を示している。この生徒4人に関しては、個別的教育相談を行い、状況を確認し、特に要支援の生徒に関しては、早期に対応し、改善に向けた支援の必要性がある。

全体的な形を見ると、右上がりの円形を示し、学級内のルールとリレーション（互いに構えのない、ふれあいのある本音の感情交流がある状態）が共にやや

低い状態と言える。一人一人が生き生きとしたまとまりのある学級に高めるために、ルールとリレーションの確立に向けた学級経営の工夫が必要とされる。

② スクリーニングテストによる実態調査と分析 ア 生徒自身による自己判断シートの作成

(7) 自己判断シートの必要性

本校の学校経営計画の中の、特別支援教育の実施計画に、実態把握のためのスクリーニングチェックリスト（チェックシート）の活用が挙げられている。本校のスクリーニングテストを利用することで、早期の「困難さ」の実態把握につなげたい。

本来なら、早い時期にスクリーニングテストを行い、生徒の実態を把握し支援につなげていくことが望ましい。しかし、現状としては、教科担任制である中学校において、担任だけで全項目を把握するのは、困難である。研究内容2の(2)で触れるが、より早い時期に、より良い判断をするために、有効な方法として、教師の連携の工夫が挙げられる。また、それに加えて、生徒自身の自己判断によるシートの活用を取り入れることで、さらに効果的な判断につなげていきたい。

生徒自身にチェック項目の中には、本人が気づいていない可能性もあるが、何よりも本人が自己を知る一番の専門家と考える。「困難さ」は本人が一番感じていることであり、改善したいと考えていることである。本人からの声は何よりも、大きな情報源となる。それをもとに、教師のチェックシートに活かし、教師から見た判断を加えることで、より、実態に近い細かな把握につながるであろうと考え、シートの作成を行った。

(4) 自己判断シートへの配慮

生徒自身による「困難さ」のチェックシートの活用で十分気をつけなくてはならないことは、教師が行っているような「特別支援教育」を全面的に出さないことである。

周りとの「違い」や、「発達障がい」の判断の材料として意識させることは、本人にとってもその保護者にとっても、「差別」と捉えられるなど誤解を与えることにもつながる。ここでは、あくまで、本人の”苦手”を克服し、自己の能力を高めるためのア

ンケートという形で、教師にとっても、生徒にとっても、プラスの捉え方で作成し、利用していきたい。

(ウ) 自己判断シートの工夫

実際に作成するにあたり、ネーミングと質問項目を工夫した。

㊦ ネーミングの工夫

ネーミングは、先に挙げた生徒や保護者の誤解を与えないように配慮し、かつ、生徒自身の自己の能力を高めることを意識させるようなネーミングということで「得意・苦手をチェックしよう!」とし、前文を加えた。前文では、「(前略)得意なことを伸ばし、苦手なことを克服するためのチェックを行い、『目指したい自分』へ向かうためのステップアップにつなげていきたい」とまとめた。

㊧ 質問項目の工夫

質問項目に関しては、教師のスクリーニングテストと連動した内容で、質問を厳選し、生徒が分かりやすく理解できる内容にした。教師のスクリーニングテストは「LD」「ADHD」「自閉症」に分かれており、「LD」においては、読む、書く、聞く、話す、計算、推論、運動、の項目があり、さらに具体的な質問に分かれている。次に例を挙げる。

(例) ㊦スクリーニングテスト → ㊧自己判断シート

㊦「LD」の(1)「読む」において、
ア 話のあらすじや、文章の概要を理解すること
イ 助詞や文末を読み間違えずに読むこと
ウ 文字や行をとばさず読むこと

㊧ 項目1において、
(1) 教科書などの文章を読むこと
(2) 国語の文章を読んで、問題に答えること

スクリーニングテストにおいて3項目を自己判断シートでは2項目にしており、順番を揃えることで、後に自己判断から教師のスクリーニングテストに繋げやすくした。

また、「特別支援」に関係する項目以外に「困っていること」や「目指したい自分」を記入できるようにした。「困っていること」については、その他の質問項目と同様に、教育相談で活かし、さらに、細かい部分での把握や、「良さ」や「困難さ」などの生徒理解

改善につなげていく。「目指したい自分」については、

手意識を持っていた。



得意・苦手をチェックしよう!

1	年	2	組	番	名前
---	---	---	---	---	----

誰にでも得意なことがあれば、苦手なこともあります。自分のことを分かっているようで意外と分かっていないこともあるかもしれません。また、得意なことをもっと伸ばしたい、苦手なことは克服したいと思っても、なかなか思うようにいかないこともあります。ここでは、いろんな項目で得意・苦手をチェックし、「目指したい自分」へ向かうためのステップにつなげていきたいと思えます。

★あなたの得意なことや苦手なことはなんですか？次の質問を読んで、あてはまる番号に○をつけてください。

1. (1) 教科書などの文章を読むこと
① とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ● ちよつと苦手 ⑤ とても苦手
- (2) 国語の文章を読んで、問題に答えること
② とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ● ちよつと苦手 ⑤ とても苦手
2. (1) 字を正しく書くこと
① とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ④ ちよつと苦手 ● とても苦手
- (2) 黒板の字をノートにうつすこと
② とても得意 ② まあまあ得意 ● ふつう ④ ちよつと苦手 ⑤ とても苦手
3. (1) 先生の話や説明を聞くこと
② とても得意 ② まあまあ得意 ● ふつう ④ ちよつと苦手 ⑤ とても苦手
- (2) 人から聞いた説明や頼まれたことをしっかりと覚えておくこと
② とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ● ちよつと苦手 ⑤ とても苦手
4. 自分の言いたいことを相手にわかるように話すこと
① とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ④ ちよつと苦手 ● とても苦手
5. (1) 数学の計算をすること
① とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ● ちよつと苦手 ⑤ とても苦手
- (2) 図形の勉強をすること
② とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ● ちよつと苦手 ⑤ とても苦手
6. 時間を守ること
① とても得意 ② まあまあ得意 ③ ふつう ● ちよつと苦手 ⑤ とても苦手

自己判断シート（生徒記入例：表面）

(I) 自己判断シートの活用の実際

アンケート実施前、担任と現在分かっている範囲で、生徒一人一人の様子や「困難さ」がないか話し合った。アンケート後、自己判断シートを回収すると、担任から挙げた気になる生徒のほとんどが、自己判断で何らかの項目で、「とても苦手」もしくは、「ちよつと苦手」を選択していた。また、「とても苦手」を選択している生徒の中には、担任からは挙がってこなかった生徒も数名含まれていた。次に事例を示す。

事例1

不登校傾向のAさんは、「自分の言いたいことを相手に分かるように話すこと」を含め、多くの苦手意識を持っていることが分かった。

事例2

対人関係のトラブルが多いBさんは、その時にも学級内や部活動の友人とトラブルが発生していたが、自己判断シートからは特に苦手意識が確認できなかった。後日、友人間のトラブルの和解を持つが本人の自覚がなく、こじれてしまった。

事例3

度重なる落書きや、周りの状況が判断できず指導されることの多いCさんは、「人から聞いた説明や頼まれごとをしっかりと覚えておくこと」や「時間を守ること」「忘れ物をしないこと」や学習面に対してとても強く苦

事例4

担任から挙げた「気になる生徒」には含まれていないDくんは、「自分の言いたいことを相手に分かるように話すこと」をととても苦手としており、「文章を読むこと」など学習面で苦手意識を強く持っていることが分かった。

以上の事例に挙げた生徒以外にも、「とても苦手」に○をした生徒も数名いた。アンケートの場合、考慮しなくてはならないのが、自分に対する見方の個人差である。周りから見たら、「苦手」があると受け取られない生徒の中に「苦手」項目が多く見られたり、事例3のように、周りは感じていても、本人は感じていないような逆のケースもある。自分に厳しい判断をするのか、甘く判断するのか、自分の中で意識がないのかをよく検討する必要がある。また、この自己判断シートで知る情報は限られており、これだけで状況を判断することはできないので、Q-Uアンケートの結果を含め、「とても苦手」と記入した生徒から、直接状況を確認するため、教育相談を実施していく。あくまでも、「判断」のためではなく、それぞれの能力の向上を目指した「自己実現のためのステップアップ」と捉え、生徒にも趣旨を伝える。

(2) 保護者・職員との連携と、教育相談による個別の実態把握と支援方法の工夫

① 学級通信を利用した保護者との連携

生徒一人一人の「良さ」を伸ばし、「困難さ」を改善し、自己の能力を向上させる支援を行うためには保護者との連携が大切になってくる。保護者の意見は、とても参考になる情報源である。

保護者からの声で、よく耳にするのが「小学校から中学校になり、親子のコミュニケーションをとる機会が減った。」「学校からの連絡物もなかなか家まで届かない」などである。保護者は、我が子の成長を確認するためにも、時間の大半を過ごす学校での様子を知りたいものである。

親子でのコミュニケーションづくりを行うことが一番大切なことではあるが、実際には、三者面談などのわずかな時間で様子を聞いたり、何か問題が発生して連絡を受けて驚いたりなどと、教師から伝えられて初めて気づく、ということも少なくない。逆

に、保護者が子どもに対し問題意識を持っていたり、悩んだりしていることを教師は知らないことも多い。

また、私自身も、保護者との連携の重要性は十分認識しており、本来、問題があった時の連絡だけではなく、「良さ」の報告などの細やかな情報交換を行い、より良い連携を取りたいと考える。しかし、面談や電話連絡などの連携を密に行うには、教師も、保護者も時間的に難しいのが現状である。

保護者の声に耳を傾け、学校での様子を伝え、良き情報交換を、限られた時間の中で行うための手段として、「学級通信」が役立つのではと考えた。

「通信」の形の情報交換であれば、一度に情報を発信でき収集できるので、時間の問題は解消できる。さらに、双方向の情報交換になるような工夫をすることにより、より良い情報交換の道具となるのではと考え、学級活動通信『すてっぶ通信』を発行することにした。

『すてっぶ通信』の目的

- ① 生徒の「人間関係づくり」や「自己実現」に向けての意欲の向上。
- ② 保護者の声を聴く。
- ③ 学級活動の様子や生徒の声（意見・感想）を伝える。

『すてっぶ通信』の工夫

- ① 活動の足跡としてファイルに綴る。
- ② 保護者の意見欄やサイン欄を設ける。
- ③ 生徒の活動の様子が分かるよう作成する。

- ① ・ファイルに綴ることにより、紛失をなくし消耗を防ぐ。
 - ・『すてっぶ通信』では学活や道徳などの学級活動の様子の「全体」が、ワークシートや個人資料では「個」の活動が把握でき、個人資料の足跡になる。
- ② ・双方向の情報交換となる。
 - ・サイン欄を設けることで、通信が届いているか確認ができ、生徒から保護者に繋がらないという欠点を改善することができる。
 - ・保護者も意識的に見ることができる。
- ③ ・家庭でのコミュニケーションのきっかけづくりとなる。



○保護者の声

- ・自分の気持ちを上手く伝えたり、表現したりなかなかできないことだと思うので、授業を通して学んでくれると親としてうれしいです。
- ・子供が学校で楽しく過ごすことが親として安心です。私も毎日子どもとコミュニケーションをとりながら、サポートしていきたいと思います。
- ・自分の考えを言葉として相手に伝えることができるという点だと思います。学校という場で一つの技術として習得できるという点です。家庭でも努力していきたいと思います。
- ・自分の考えを大切にし、相手に伝え、周りの人の気持ちも考えられる人になってほしいと願っています。大人でも難しいけど努力してほしいです。
- ・自分の思ったことを相手に上手に説明することができない。説明したとしても、翌日になったら違うことを言ったりするので、いまいち理解に苦しむ事がある。

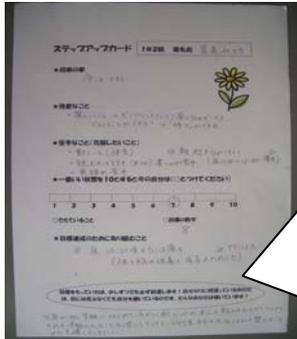
② 教育相談による個別の実態把握と支援方法の工夫

今回は、全員の教育相談が難しかったため、「自己判断シート」から、「とても苦手」を選択した生徒と希望者を対象に教育相談を行った。「Q-Uアンケート」で挙げた気になる生徒も、ほとんど含まれていた。直接本人から、詳しく状況を聴き、自己実現につなげる「困難さ」の改善を図ることを大きなねらいとしている。また、相談の際は、カウンセリングマインドを意識することで信頼関係を育み、解決志向アプローチを取り入れることで、自信をつけ目標を持たせていきたい。

教育相談は「自己判断シート」をもとに、『ステップアップカード』と称した相談記入用紙に教師が生徒と会話をしながら記入する形で行った。「Q-U

アンケート」でも挙げた気になる生徒に関しては、

「Q-Uアンケート」は個人情報のアンケートであることを考慮し、用紙は持たず事前に内容を確認して行った。



ステップアップカード

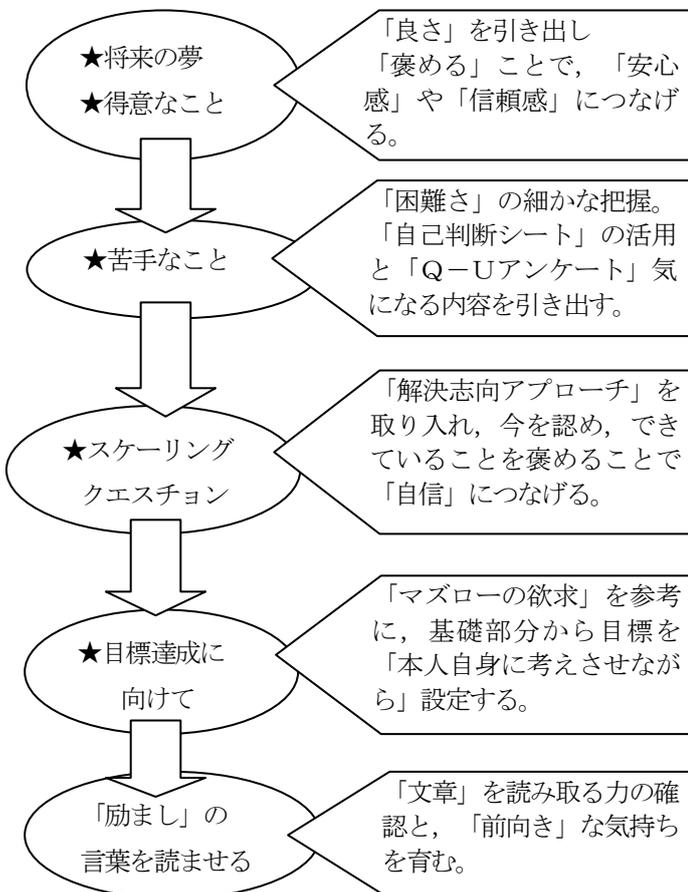
「励ましの言葉」

目標を持っていれば、少しずつでも必ず前進します！自分なりに頑張っているあなたは、目には見えなくても自分を磨いているのです。そんなあなたは輝いています！

「ステップアップカード」

- ★将来の夢
 - ★得意なこと
 - ★苦手なこと (克服したいこと)
 - ★スケーリングクエスチョン
 - ★目標達成のために取り組むこと
- 「励ましの言葉」

☆教育相談の流れ



③ 学年職員の連携（支援体制づくり）による個別の実態把握と支援方法の工夫

早期の実態把握や、より良い支援のための学年職員の支援体制づくりの計画を行った。

ア 支援体制づくりの流れ

- (ア) ねらい, 方針, 流れの確認
- (イ) スクリーニングテストの確認と各学級の気になる生徒を挙げる
- (ウ) 気になる生徒の気になる点 (学習面・生活面) を各担任で用紙に記入
- (エ) 各学級の気になる生徒の気になる点を学年一覧にして学年職員 (教科担任) に配布
- (オ) スクリーニングテスト内容を念頭に、授業において観察
- (カ) スクリーニングテスト実施 (担任)
- (キ) 学年職員で各生徒のスクリーニングテストを再度確認・付け加えをし「困難さ」を把握
- (ク) 支援方法の検討
- (ケ) 経過報告・支援方法の再検討

3 研究内容3

- (1) ソーシャルスキルトレーニング, 構成的グループエンカウンターなどを取り入れた社会性・人間関係力を育む学級活動と自己実現に向かう姿勢を養う学級活動の工夫, 計画, 実施

ア ソーシャルスキルトレーニング, 構成的グループエンカウンターなどを取り入れた学級活動の工夫, 計画, 実施

(ア) 学級活動の工夫

㊦ねらい

★ソーシャルスキルトレーニング

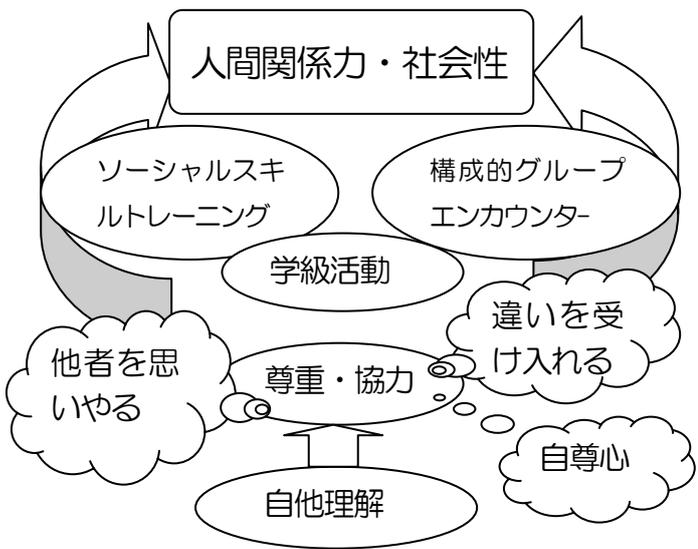
- 社会生活や対人関係を営んでいくために必要とされる技能を習得する。

☆構成的グループエンカウンター

- 人間関係をつくり、人間関係を通して自己や他者を理解する心と心の交流活動。

④技法

- ★ソーシャルスキルトレーニング
「教示（説明）」→「モデリング」→「リハーサル」
→「フィードバック」→「定着化」
- ☆構成的グループエンカウンター
「インストラクション（説明）」→「エクササイズ」
→「シェアリング」



○「ソーシャルスキルトレーニング」「構成的グループエンカウンター」の双方とも本研究テーマに迫る要素が含まれている。共に取り扱っている自己理解につながる活動を学級活動に取り入れることで、自尊心や、他者を思いやる態度を育てる。互いを尊重・協力し合う学級の実態や段階に応じて、それぞれの内容や技法の「良さ」を活かして学級活動を展開していく。

(イ) 学級活動の計画
次ページ (指導計画)

イ 自己実現に向かう姿勢を養う学級活動の工夫、計画

(ア) 自己実現に向かう姿勢を養う工夫

⑦ ねらい

将来に夢や希望を持ち、目標を立て、ステップを積み重ね、自分自身の力で自己実現に向かう姿勢を養う。

④ 方針

3ステップ3コースで、目標を立て、自分で意識することの大切さに気づかせる。

⑦ 方法

- 1 夢・なりたい自分
 - 2 目標を立てる
 - 3 小目標を立てる
 - ◎苦手克服コース
 - ◎得意伸ばしコース
 - ◎チャレンジコース
- 3ステップ
- 3コース

a 工夫のポイント

自己実現の大きな目標を「夢」（将来の職業）や「なりたい自分」とし、そこに向かう手だてを段階（3ステップ）を踏まえて多面的に（3コース）自分で考えることで、より具体的に意識し、自己の能力の向上を図っていく。

○3コース

- 「困難さ」改善のための『苦手克服コース』
- 「良さ」の伸長のための『得意伸ばしコース』
- 自己の新たな能力の発見と伸長のための『チャレンジコース』



学級掲示物



生徒用シート

(イ) 自己実現に向けての学級活動の計画

次ページ (指導計画)

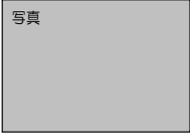
Ⅶ 指導の実際

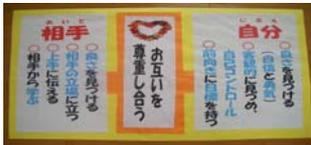
1 指導計画

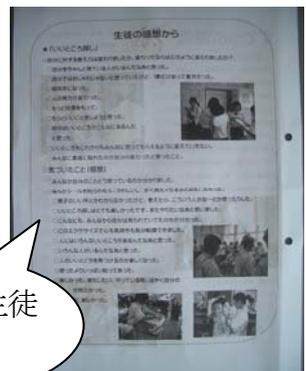
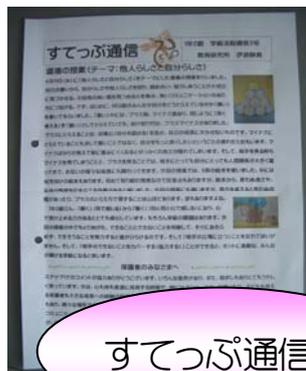
□エンカウンターでのねらい ■特別支援に関する事項

回	日時	題材	ねらい	学習活動
1	5/21(水) 2校時 【道徳】	1. 自己紹介 2・特別支援アンケート実施	1. これからの活動について説明する。 ・社会にでるための技術を身につける。 ・人間関係づくりや自己発見、目指したい自分へのステップアップ。 2. 「アンケート」に答える。得意・苦手をチェックすることで、自己を客観的に判断し、受け入れ、自己実現につなげるきっかけにする。	
2	5/23(金) 5校時 【学活】	Q-Uアンケート実施①	アンケート回答することで、個々の生徒が自分自身を内観し、振り返り、今後の学校生活を見つめ直すきっかけにする。	アンケートを実施することで、個々の生徒の実態や生徒間の関係などを把握し、より良い学級づくりや支援方法に活かす。 ■特別支援アンケートの結果も含め、教育相談の計画・実施につなげる。
3	5/30(金) 5校時 【学活】	ミックス伝言ゲーム 1. 表情 2. 言語	1. 様々なコミュニケーションの方法を体験し、伝えることの難しさ・うれしさなどの経験から話をしっかり聞くことの大切さを知る。 2. 伝えるために必要な要素や、共に協力することの楽しさや喜びを味わう。	1. 言語・非言語での伝言ゲームをグループで体験する。 2. 伝える要素を気づかせ、「見るスキル」「聞くスキル」「話すスキル」を育成する。 □傾聴訓練 ■支援の必要性のある生徒がいなか観察。
☆	6/2 (月) 	学級通信を発行 	自己紹介と研究内容・趣旨・これからの活動「伝言ゲーム」の報告について伝える。保護者が子どもに関して気になることや協力してほしいことなどを記入させ、実態把握と支援につなげる。	
4	6/4(水) 2校時 【道徳】 	「わたしのいもうと」 内容項目4－(4) 	いじめにあった人や家族の心の傷の深さを知り、いじめている側といじめられている側の思いの違いや、相手の立場に立つことの大切さに気づかせる。	絵本「わたしのいもうと」や、東中の生徒作文「潮音」から、いじめについて意見を出させ、考えさせる。 ■他人には分からない「困難さ」を理解し、受け入れ、励ますことの大切さを理解させる。

□エンカウンターでのねらい ■特別支援に関する事項

回	日時	題材	ねらい	学習活動
5	5/23～	教育相談	特別支援・Q-Uアンケート結果から教育相談を実施し、生徒個々の実態を把握する。支援の必要性のある生徒については、「できること」「困難さ」を確認し、教育的ニーズを把握し支援方法を検討する。 ■支援の必要な生徒や支援方法を検討	
☆	6/9 (月) 【帰りの会】	学級通信を発行	道徳の授業「わたしのいもうと」の生徒の様子や感想を伝える。	
6	6/11(水) 2校時 【道徳】 	「他人らしさと自分らしさ」 内容項目 2-(5)	他者と自己の違いから、自分らしさや他人らしさを知り、認め合い、補い合うことの大切さに気づかせる。 自他の良い面を見つめる心を育み、良いコミュニケーションのあり方につなげる。 	1. 「かつくん、どうしてぼくだけしかくいのか？」 2. 「かえるくんはかえるくん」 3. 「ぶらんこのせて」 3冊の、読み聞かせをする。 ■ワークシートに絵本の内容の一部（写真）を載せ、理解しやすくする。
7	6/12 (木) 【朝の会】	「コミュニケーションの達人」学級活動を振り返る。		○「聴く」・目と耳と心で感じる ○ 話す・相手の立場に立つ・丁寧な言葉でしつかりと・相手を見て笑顔で・時と場所を考えて
8	6/13(金) 5校時 【学活】 	いいところ探し	他者のいいところを見つけさせることで、自他を肯定的に見る習慣を身につけさせる。 	1. 「長所を見つける」ということをテーマに活動させ全体が動き回って楽しく行うことで、学級全体の一体感を体験させる。 2. 他者が自分自身をどのように見ているのかを認知させ、自尊心を高め、お互いの関係が良好になる対人関係能力を向上させる。□他者理解・自己受容 ■流れ・ルールの視覚表示
☆	6/16 (月) 【帰りの会】	学級通信を発行	道徳の授業「他人らしさと自分らしさ」の生徒の様子や感想を伝える。	
9	6/18(水) 2校時 【学活】	この人は誰でしょう 	他者が自分自身をどのように認知しているか気づかせ、自己肯定感を育てる。	「いいところ探し」の結果を利用し、他者がいかに自分の良い面を見ているかに気づかせ自己肯定感や積極的な態度を養う。 □自他理解・自己開示 ■流れ・ルールの視覚表示

10	6/20(金) 5校時 【道徳】	お互いを尊重し合える学級にするには？ (心のノート) 内容項目2ー(5)	「お互いを尊重し合える学級」に必要なことを考えさせる。 自分・自分の良さを見つける(自信と勇氣) ・自己コントロール ・前向きに目標をもつ。 相手・良さを見つける(他人には分からない一面もある) ・相手の立場に立つ ・上手に伝える ・相手から学ぶ	
☆	6/20(金) 【帰りの会】	学級通信を発行	学活の授業「いいところ探し」「この人は誰でしょう」の生徒の様子や感想を伝える。	
11	6/27(金) 【学活】	自己実現に向けて 	将来の夢や希望を持ち、自分自身で目標を立て、スモールステップで積み重ね自己実現に向かう姿勢を養う。 3ステップ3コースで、自分で意識することの大切さを学ぶ。	3ステップ 1夢・なりたい自分 2目標を立てる 3小目標を立てる 3コース 1苦手克服コース 2得意伸ばしコース 3チャレンジコース
12	7/4(金) 【学活】	「あなたならどうする？」	～検証授業(指導案参照)～ 葛藤場面でのより良いコミュニケーション方法の育成	
13	7/9(水) 2校時 【学活】	1. Q-Uアンケート実施 2. 学級活動を振り返って	回答することで、個々の生徒が自分自身を内観し、振り返り、今後の学校生活を見つめ直すきっかけにする。	1. アンケートを実施することで現在の実態を把握し、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターなどを取り入れた学級活動が、より良い学級組織づくりや支援方法に活かされているか確認し、今後の活動の方向性を検討する。 ■支援方法の反省、再検討
☆	7/10(木) 【帰りの会】	学級通信を発行	検証授業「あなたならどうする？」の生徒の様子や感想を伝える。 保護者から見た子どもの様子や変化を記入してもらう。	



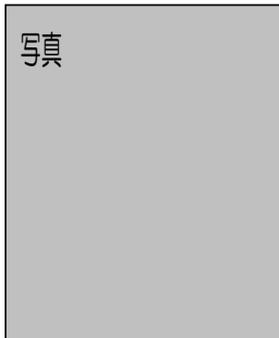
すてっぷ通信

裏には生徒の感想

2 実践事例

(1) 実践例1 6月4日 (水) 2校時【道徳】

- ① 題材名 「わたしのいもうと」内容項目4- (4)
- ② ねらい いじめにあった人や家族の心の傷の深さを知り、相手の立場に立つことの大切に気づかせる。
- ③ 活動の様子



読み聞かせの様子

【教材の内容】

「いもうと」は、「いじめ」によって亡くなった一人の少女の姉からの手紙をもとにした絵本です。短い手紙の中に、いじめる側といじめられる側や残された家族の思いの大きな違いが込められている作品です。

【授業の展開】

いじめられた側の思い、いじめた側の思い、残された家族の思いなど、その人の立場に立って生徒一人一人考えました。後日、生徒の感想のまとめや、昨年度の沖縄東中の生徒作品集のいじめについての意見文から、人は人と関わって生きているからこそ、相手の立場に立ち思いやりの心を持つこと(=互いに尊重し合う)ことの大切さを伝えました。

【特別支援との関連】

「いもうと」では、転入生の妹が“言葉が違う”ことや“運動ができない”というちょっとした「違い」から「いじめ」に発展しました。ワークシート項目の“もし、「違い」を受け入れ、カバーできる学級であったら、妹はどうなっていたと思いますか?”という質問には、ほとんど全員が“妹も楽しく、みんな仲の良い学級になっていたと思う”などと答えていた。最後の感想では、他人には分からない「違い」「困難さ」を理解し、受け入れ、励ますことの大切さを理解させることにつながったと感じる内容が多くあった。

★生徒感想

〇いじめを受けたのは何年も前のこと、でも一度傷つけられた心をもとどおりにするのは難しい事。だから妹は傷つけられた心をもとどおりにできなかったんだと思う。残された家族も家族の1人を失い、とてもつらかったと思います。言葉が少し違っていても「その言葉はどこの？」などとみんなが受け入れていけばきっと妹はいまごろ楽しい生活を送っていたんじゃないかと思います。

(2) 実践例2 6月11日 (水) 2校時【道徳】

- ① 題材名 「他人らしさと自分らしさ」内容項目2-(5)
- ② ねらい 他者と自己の違いから、自分らしさや他人らしさを知り、認め合い、補い合うことの大切さに気づかせる。【特別支援との関連】
- ③ 活動の様子 【教材の内容と展開】

自分の「違い」をどう思う？

「違い」から「良さ」

「ぶらんこのせて」

「良さ」や「努力したらできそうなこと」を見つける

「かっくん、どうしてぼくだけしかくの？」

場面ごとの気持ちの変化を+と-や言語で表す。

「かえるくんはかえるくん」

自信のあるかえるになるためには？

相手の立場に立って受け入れ、良さを見つけ、協力し合うことの大切さに気づかせる。

★生徒感想

- 相手の見方を変えれば、いいところが見つかることが分かった。
- 一人だけ違うけれども、何かしらみんなに協力できることがあると思う。だから、一人だけ違うと思わないで、何か自分にできることを見つけたいと思った。
- 次にみんなとちがう形の子がいてもみんなとちがっていいものを持っているから自信を持っていいと思う。
- 相手の良さを見つけ、相手ができないことはお互いに助け合っていきたい。

(3) 実践例3 6月13日 (金) 5校時【学活】

- ① 題材名 「いいところ探し」
- ② ねらい 他者のいいところを見つけさせることで、
自他を肯定的に見る習慣を身につけさせる。

写真

気になるなあ。

③ 活動の様子

【授業の展開】

「長所を見つける」ということをテーマに、背中にある色画用紙にその人にあった「いいところ」シールを貼っていく活動をする。全体が動き回って楽しく行うことで、学級全体の一体感が体験できた。それぞれの「良さ」を考えて貼っている様子や自分の背中のシートに貼っているのをうれしそうに待っている生徒の様子が見られた。自分のシートが気になって早く見たがる生徒もいた。その後、自分の「良さ」を確認することで、他者が自分自身をどのように見ているのかを認知させた。生徒の活動の様子や感想から、自尊感情を高めることができたものとする。これをもとに、さらにお互いの関係が良好になる人関係能力を向上させるために、「良さ」を集計させて、次回の「この人は誰でしょう」につなげる。

【特別支援との関連】

- 「良さ」を見つけ、相手を受け入れる人間関係力の向上により、「違い」や「困難さ」を認め、協力し合う心を養う。
- 言葉での説明だけでは理解しにくい生徒への配慮とルール違反をなくすための意識づけのため、ルールを視覚表示した。

写真

「良さ」の集計

★生徒感想

- 自分はいいところがこんなにあるんだと思った。
- 自分をちゃんと見ている人がいるんだなあと思った。
- 自分ではおしゃれじゃないと思っていたけど、1票だけあって意外だった。
- 前向きになった。 ○人の見方が変わった。 ○みんなに素直に貼れた。
- もっといいことをしようと思った。
- いいところをこれからもみんなに思ってもらえるように変えていきたい。
- 人のいいところを見つけるのが楽しくなった。
- なんかシールを貼られたらうれしいしすぐ見たくなるからおもしろかった。
- このエクササイズで心も気持ちも気分転換できました。
- いいところ探しはとても楽しかったです。またやりたいなあと思いました。

3 公開検証授業

第1学年 学級活動学習指導案

平成20年7月 4日(金) 2校時
沖縄市立 沖縄東中学校 1年2組
男子16名 女子19名 計35名
授業者 伊波静恵

- 1 題材名 「あなたならどうする？」
(葛藤場面におけるコミュニケーション方法)

2 題材設定の理由

(1) 題材観

中学校学習指導要領における特別活動の目標は『望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う』であり、本題材は、学級活動の内容の(2)『個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること』の中の『ア 青年期の不安や悩みとその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会の一員としての自覚と責任、男女相互の理解と協力、望ましい人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解など』に関わるものである。

本題材である「あなたならどうする？」は、葛藤場面において、上手な断り方について学習しながら、アサーション(自分も相手も大切にしたい自己表現)について理解し、実践力につなげることをねらいとしている。

本研究テーマは、「人間関係力を育む学級経営のあり方」である。これまでに、学級活動では、基本的なコミュニケーションの方法や、自他を理解し、認め合うといった対人関係能力の向上を目指した体験的活動を行ってきた。また、道徳の時間においても、「いじめ」をテーマにした「わたしのいもうと」では、学習指導要領の内容項目4-(4)『正義を重んじ、誰に対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める』観点から、相手の立場に立つことの大切さを取り上げ、「他人らしさと自分らしさ」では、内容項目2-(5)『それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心を持つ』という観点から、個性の尊重や他に学ぶ広い心を育てる指導を行ってきた。本研究のサブテーマ「特別支援の必要な生徒への支援の工夫を通して」という実践として、道徳・学級活動において、自他の「違い」や他人には分からない「困難さ」を理解し、受け入れ励ますことの大切さや、夢や希望を持ち、前向きに、自分自身の力を高める方法について取り上げてきた。このことは、特別支援教育の理念の中の『障害のある生徒の自立や社会参加』や『生徒一人一人の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導や必要な支援を行う』に関わる。今のみではなく将来を見据えた「自立・社会参加」に向けた、すべての生徒に必要なとなる「社会性」を身につけさせ、その中でも特に重要だと考えている「人間関係力」を向上させていきたい。また、最終的には自分の力で「困難さ」や目の前にある課題を改善する態度を身につけさせたいと考える。

「あなたならどうする？」を通して課題を解決する方法を育成し、良いコミュニケーションの方法から人間関係力を高めたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、明るく素直で意欲的である。特に男子生徒は、授業での発言も多く、活動も活発である。しかし、集団活動の中で、相手の立場や、時と場所をわきまえない自己中心的な言動が見られる時もある。また、学級の中で、言いたいことを言えずにいたり、意志とは反対のことをしていることに不満を持っていると、友人関係の中で悩みを持つ生徒もいる。

本来、生徒がこれまで育つ過程における仲間集団の遊びの中で、さまざまな折り合いや対立、妥協、主張などを通して、人とどのようにつき合ったらいいかという、つき合い方を学んでいく。しかし、近年の少子化傾向や核家族化などの影響から、コミュニケーションが減少しており、つき合い方を学ぶ体験が少なくなっている。その結果として、不登校や、自己主張ができずに他者から孤立してしまうということが起こっている。本学級の生徒においても同様で、上手く自己表現ができず、あるいは相手の立場に立つことができず、友人間のトラブルに発展しているケースもある。現代において集団活動を通して、より良い人間関係を作り上げる経験ができるのは、「学校」であり、「学級活動」が効果的であると考えられる。社会性、または、人間関係づくりの学級活動の中でも、葛藤場面での自己主張は、生徒にとって普段の生活の中でも苦手としており、アサーションを習得することは、生徒相互の良好な人間関係を育むためにとても重要である。攻撃的な方法でもなく、自己の気持ちを後回しにするような方法でもなく、自己も他者も傷つけないようなコミュニケーション方法を学ばせ、これからの学校生活や社会生活での実践力につなげていきたい。

(3) 指導観

本題材の葛藤場面でのアサーションによるコミュニケーションの方法は、ソーシャルスキルトレーニング（社会的技能）や構成的グループエンカウンター（人間関係づくり）双方で取り上げられている。今回の研究では、技法に深くこだわらずに、それぞれの共通性や良さを生かし、学級の実態に合わせた流れで展開する。

本授業においては、教師によるロールプレイから始まり、生徒間のロールプレイでまとめている。生徒が教師という見本を見て確認することで安心して取り組み、自ら実践することで紙面上の考えではなく体感（実感）させることを目的とする。

中学1年生という発達段階において、楽しみながらわかりやすくするために、キャラクターや様々なケースを取り上げた教材を使用する。自己の性格の傾向を知り、アサーションを習得するという流れの中で、自分自身で考える場面をいくつか設ける。ロールプレイや考える場面の設定によって、普段の生活に、より定着させることを目指したい。

特別支援も視野にいれ、生徒の集中力を持続させるため、最後のロールプレイ以外に、自己の断り方のパターンを黒板に提示させ、すべての生徒自身が動く活動を授業の中に取り入れた。そうすることで、自他理解にもつながると考える。また、耳で聞き取ることが苦手な生徒がいるため、ワークシートと同様の内容の黒板表示を効果的に利用する。“上手な断り方の3ステップ”は、ワークシートを用いて細かく説明し、ポイントを表示しながら、再度説明していく。“3ステップ”は最後の実践力を身につけるために重要なので、繰り返すことで、理解を深めさせたい。

4 本時の展開

(1) 本時のねらい

- ・アサーティブな自己表現の仕方について、より良い人間関係を育むために大事な表現だということに気づき、これからの学校生活での実践力を身につける。

(2) 検証仮説

上手な断り方を表現する場面において、表示プレートを有効に活用し、アサーティブな自己表現で、頼む側、断る側の両方をロールプレイさせることにより、自己も他者も大切にしたい表現で課題解決することができるであろう。

(3) 準備するもの： ワークシート、黒板掲示物、

(4) 展開

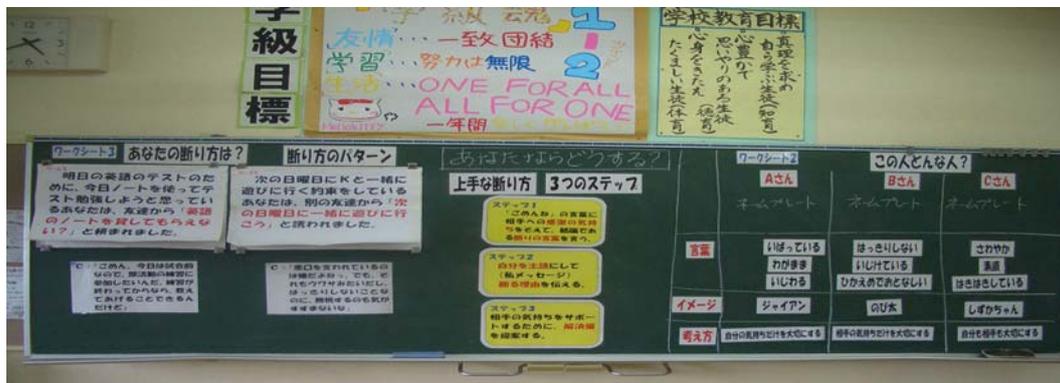
	学習活動・内容	指導の手立て	評価
導入 5分	1. 今日の題材について ・学校生活での葛藤場面で、困ったとは ないか考える。 ・「上手な断り方」についての学習をす ることの説明を聞く。	・『コミュニケーションの達人』の「聴 く」を確認 ・題材名「あなたならどうする？」を板書 し、ワークシートを配布する。 ・アサーションの説明をする。	
展開 I 10分	2. 自己チェック（あなたの断り方 は？） ・提示された2つのケースについて日頃 自分がしている断り方を2～3名ずつ 指名して発表する。 ・自分の断り方の傾向を意識する。	・ ワークシート1 の「あなたの断り方 は？」に、具体的に話し言葉で記入させ ておく（事前に記入） ・ケース1と2を黒板で掲示。 ◆聴きとることを苦手とする生徒に配慮す るため、ワークシートの内容を黒板掲示 し、説明する。 ◆トラブルのあった生徒の断り方の傾向を 事前に確認する。	・ワークシートに記入 できたか。 ・自分の意見を発表で きたか。 ・他者の考えを聴くこ とができたか。 （ワークシート・観 察） 【技能 表現】
展開 II 15分	3. 断り方のパターン ・A・B・Cのパターンを教師がロール プレイする。 ・自分の書いた断り方はどのパターンに 近いが ワークシート1 にA・B・Cを つける。 4. この人どんな人？ ・それぞれに共通する特徴を ワークシー ト2 の「この人どんな人？」にまとめ る。	・ 資料1 のA・B・Cをロールプレイし ながら黒板に掲示する。 ・○をつけたパターンを確認し、黒板にネ ーム磁石で表示させる。 ・パターンの判断ができない場合の表示場 所を指示する。 ・3名を指名し、「この人どんな人？」の 表を完成させる。 ・アサーションな表現はどれか確認する。	・自分の意見を発表で きたか。（ワークシ ート・観察） 【技能 表現】

展開Ⅲ 15分	5. 上手な断り方3つのステップ <ul style="list-style-type: none"> 資料2の説明を聞く。 ワークシート3のケース2つについてステップ3を目指して具体的に書く。 2つのケースについて、2人又はグループでロールプレイをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ()を埋めさせ、ポイントにアンダーラインを引かせる。 要点をまとめ、黒板に掲示する。 表示プレートの活用の仕方を説明し、確実に頼む人と断る人の両方を体験するよう指示し、上手くいっていないペアの支援をする。 ◆机間支援(トラブルのあった生徒に配慮する) 	<ul style="list-style-type: none"> 説明をしっかりと聞くことができたか(観察) 【関・意・態】 上手な断り方のロールプレイができているか。(ワークシート・観察) 【技能 表現】
終末5分	9. 感想・自己評価を記入する。 10. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 生徒感想を発表または紹介する。 自分と周りの人との関係を良好にしているためには、アサーション(自分も他人も大切にすること)が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> アサーションの重要性が理解できているか(感想) 【知識・理解】

5 事後指導

- 学級通信で生徒の活動の様子と感想を紹介する。
- アサーションが定着しているか日々の活動で意識させる。
- 構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを活用した「人間関係力を育む」学級活動を継続し、定着化を図る。

6 板書計画



7 評価

- 表示プレートを活用することにより、すべての生徒が頼む側・断る側を体験することができたか。【観察】
- より良い人間関係を育む手段として、アサーション(自分も相手も大切にしたい自己表現)の大切さを知り、実践しようとする態度が身についたか。【ワークシート】

8 主な参考文献

- エンカウンターで学級づくり12か月 (吉澤克彦・津村誠 編)
- やってみようソーシャル・スキルトレーニング (新里健・島袋有子 著)
- 通常学級の特別支援 今日からできる!40の提案 (佐藤慎二 著)
- “特別支援の基本スキル”がなければ学級担任はできない! (河田考文・大貝優希 編著)

資料1 あなたの断り方はどのパターン？

	ケース1	ケース2
状況	「最近、数学がよくわからないなあ。テストも近いし...Xくんは数学が得意だね？今日の放課後、教えてくれない？」と頼られました。あなたは断り活動の試合前日なので気がのりません。	「最近、Y子って勝手に来ているよね。それにP子から聞いたんだけど、私たちの廊下で話しているらしいよ。話イヤなやつ。もうあいつのこと無視しない？」と言われました。あなたは無視したくないので気がのりません。
断り方のパターン	A:「無理だよ。もっと楽な人に頼んでよ」 B:「ええ...うーん。少しの時間だけなら...いいよ。」 C:「ごめん。今日は試合前なので、部活の練習に参加したいんだ。練習が終わってからなら、教えてあげることもできるんだけど」	A:「そんなこと、何で私に言うの？まきこまないでよ！！」 B:「うーんどうしようかな...スズ...田中...」 C:「重曹を言われているのは嫌だね。でも、それもうフサみだしだし、はっきりしないことなのに、無視するのも気がすまないよ」

資料2 上手な断り方3つのステップ！

ステップ1 「ごめんね」の言葉や()の気持ちを伝える
「ごめんね、頼ってくれてうれいけど、貸すことができないんだ。まず友だちが自分を頼ってくれたことに感謝し、謝まる。または、相手の立場に立った言葉を伝えましょう。
これで終わると相手は「どうして？」ということになってしまうので

ステップ2 自分を主語にして(私メッセージ)断る()を伝える
「できるだけ、素直に自分の気持ちを表現しよう。自分の事情を説明することや「気が壊さない」「今自分でもどうしているかわからないんだ」など書いている気持ちを表現するのもいい。ただし、ウソばかりは「うわさも、それが原因でまたウソをつかなくてはいけなくなってしまう。自分らしいワザンな表現も遠ざかってしまいます。これで終わってしまうと、相手は仕方ないと思うけれども、あなたを頼りたい気持ちや困っている気持ちはそのまま放りだされてしまうので

ステップ3 相手の気持ちをサポートするために、()を提案する
「明日なら貸してあげるよ」「話を聞いただけなら、できるんだけど」など、相手の問題を解決する手伝いをしましょう。それで、あなたの提案を実行するかしないかは、相手が決めることなので、無理に押しつけてはいけません。相手も一生懸命に考えてもらっているのだから優しくそれ以上のことは頼みにくいようです。

自己評価 よくできたA・できたB・あまりできなかったC・まったくできなかったD

自分の意見を表現できたか。	A・B・C・D
相手の考えを聞くことができたか。	A・B・C・D
自分の意見をネーム磁石で表示することができたか。	A・B・C・D
上手な断り方のロールプレイができたか。	A・B・C・D
アサーションをこれから使ってみようと思うか。	はい・いいえ

それは、どうしてですか？

ワークシート1 あなたの断り方は？ 1年2組 番 名前

	ケース1	ケース2
状況	「最近、数学がよくわからないなあ。テストも近いし...Xくんは数学が得意だね？今日の放課後、教えてくれない？」と頼られました。あなたは断り活動の試合前日なので気がのりません。	「最近、Y子って勝手に来ているよね。それにP子から聞いたんだけど、私たちの廊下で話しているらしいよ。話イヤなやつ。もうあいつのこと無視しない？」と言われました。あなたは無視したくないので気がのりません。
断り方		

ワークシート2 この人どんな人？
○下の選択肢の言葉、イメージ、考え方は、どの人の話し方を表しているのでしょうか？それぞれにあてはまると思う言葉、イメージ、考え方を書き入れなさい。

	Aさん	Bさん	Cさん
言葉			
イメージ			
考え方			

ワークシート3 あなたの断り方は？

	ケース1	ケース2
状況	明日の英語のテストのために、今日ノートを使ってテスト勉強しようと思っているあなたは、友達から「英語のノートを貸してもらえない？」と頼られました。	次の日曜日にくと一緒に遊びに行く約束をしているあなたは、別の友だちから「次の日曜日と一緒に遊びに行こう」と誘われました。
上手な断り方(ステップ3を目標して)		

写真

断り方のパターンの
ロールプレイング

写真

自分はA・B・Cどれに近いかな？
ネーム磁石で表示している場面

写真

上手な断り方
3ステップ

写真

生徒同士の
ロールプレイング

4 公開検証授業の考察

①研究協議会から

- ・学級をしっかりとらえ、問題が起きてからの対処のような後手にまわる対応ではなく、今の生徒の実態から予防的な対応・指導が望まれる。アサーションを使いたいと、94%の生徒が挙手していたことから、即実践に生かされるのではないかと。
- ・自分の気持ちを伝えるということは、中学生にとっても難しいことで、相手の立場に立ち、自分に置き換えて真剣に取り組んでいた。
- ・今回の授業は、最後の生徒間のロールプレイに重点を置いているが、時間的に厳しかった。最後の感想も、知らせる場面を設けることで、様々な解決策などの考えを習得することができるので、説明を短くするなど時間配分を工夫する必要がある。
- ・ロールプレイにおいて、男女ペアの方法をとっていた。授業者の意図として、女子の友人関係のトラブルを配慮したものだが、男女では、恥ずかしがっていたので、同性同士または、恥ずかしい気持ちがなく取り組める設定があると、さらに深められる。
- ・ネームプレートの取り扱いについて、今回の内容的には、誰がどの考えを重視したものではなく、様々な考え方があるということに、視点を置いているので、生徒の心情を配慮すると、名前をだすよりも、番号にした方が良いかと思う。
- ・本単元の意義として、特別支援は“特別”なものではないという捉え方で、トラブルが起こる前に対応・配慮する必要がある。発達障がいのある生徒にとって、学級が落ち着けば、本人も落ち着く。単元構成としては、道徳で学んだことが特別活動で活かされ、活かされたことがまた道徳でフィードバックされるという面で良かった。ただ、自己実現に向けての位置づけを検討する必要がある。
- ・本時の授業展開に関しては、生徒にどんどん発問し、投げかけ、発言する活動は、意図が十分読み取れた。改善点としては、自分の思いだけではなく、相手の思いを書かせて立場を認識させる等、アイスブレイクの時間が必要である。思考を促し認識させる学習活動が随所に盛り込まれており、

学級づくりのためにも、良い単元内容であった。さらに汎用性の高い単元活用の提示を期待する。

②授業の考察

検証仮説

表示プレートを有効に活用し、アサーティブな自己表現で、頼む側、断る側の両方をロールプレイすることにより、自己も他者も大切にしたい表現で課題解決することができるであろう。

○授業の評価から

- ア表示プレートを活用することにより、すべての生徒が頼む側・断る側を体験することができたか。（評価方法：観察）
- ・表示プレートを活用したことで、終わっていないペアが一目でわかり、スムーズに援助にまわられた。全員の体験完了を確認することができた。ただし、今後、時間的配慮が必要である。
- イより良い人間関係を育む手段として、アサーション（自分も相手も大切にしたい自己表現）の大切さを知り、実践しようとする態度が身についたか。（評価方法：ワークシート）
- ・授業後、ワークシートの自己評価で「アサーションをこれから使ってみてみたいと思うか」という質問に 94%の生徒が使ってみてみたいと記入しており、その理由を肯定的に捉えており、ほとんどの生徒が、実践しようとする態度が身についたといえる。
 - ・使いたくないと記入した生徒の意見としては、楽しくない、めんどくさい、が挙げられた。また、最後の3ステップを踏まえた断り方において、アサーションができていなかった生徒が3人おり、もう一度確認のため例を記入し、習得を促した。3人のうち1人は、「困難さ」を抱えている生徒であるため、個別での丁寧な事後指導の必要性を感じた。また、1人は様々な事にことに関して否定的なので、その背景を探りながら、様子を見て援助する必要がある。

VIII 研究の結果と考察

本研究はテーマを、「人間関係力を育む学級経営のあり方～特別支援の必要な生徒への支援の工夫を通して～」と設定し、基本仮説を「生徒の実態把握

の仕方や教師間・保護者との連携を工夫し、人間関係をより良くする学級活動に活かすことにより、自己尊重の心や自己実現に向かう姿勢を育むことができるであろう」とし、研究を進めてきた。さらに、基本仮説を具体化した3つの具体仮説を立て、理論研究や実態調査を行い検証授業を実践した。そこで、具体仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

1 具体仮説1の検証

教師のアンケート調査を行い、特別支援や教育相談の理論研究を深めることにより、支援の方向性が明確になるであろう。

年度初めに行った教師の特別支援に関するアンケート調査の結果から、教師の特別支援に関する課題が明確になり、本校の現状を把握することができた。

アンケートの結果から、生徒間の人間関係づくりを行うことが、支援を行う上で、重要となってくるということが分かった。また、教師間で情報交換することにより、支援につながる多くの情報を得ることができたことから、支援体制づくりを進めることが、より良い支援につながると実感している。

特別支援の理論研究を進めることで、発達障がいのある生徒の特徴や判断の方法、対応の仕方など支援に活かせる基本的なスキルを把握し、授業や学級経営の中で活かすことができた。また、そのことで、特別支援の必要な生徒のみならず、すべての生徒にとって役立つ支援を行うことができた。

教育相談の理論研究においても、カウンセリングマインド、マズローの5段階の欲求、解決志向アプローチの技法を教育相談に取り入れることにより、生徒と教師間の信頼関係を育み、より細かな個々の状況や学級全体の状況を把握することができ、生徒個々の課題解決や良さの伸長につながる支援の方向性を明確にすることができた。

2 具体仮説2の検証

生徒の実態調査を実施・分析し、教育相談や保護者・教師間の連携を工夫することにより、発達障がいや学級間の人間関係の実態把握ができ、支援がとれるであろう。

(1) 生徒の実態調査の実施・分析

Q-Uアンケートの学級満足度尺度結果により、学級間の人間関係等の全体の状況を把握した。また、Q-Uアンケートの個人のデータや、スクリーニングテストを参考にした自己判断シートにより、個々の「発達障がい」や「困難さ」等の細かな状況を把握した。その結果をもとに、教育相談につなげることができた。

(2) 教育相談や保護者・教師間の連携の工夫

○教育相談の工夫

カウンセリング等の技法の理論研究を進め、実態調査の結果を受け、実際に教育相談に活かすことにより、「困難さ」や「違い」などが早期に把握でき、支援の方向性が明確になり、実施につなげることができた。

事例：学習面において苦手意識を強く持っているDくんの教育相談を行った。漢字が苦手で、どうしても覚えられず、本を読んでもページをめくると前のページの内容を忘れる事が多いということが分かった。努力家で、小学校の頃から、克服しようと工夫しており、中学に入ってから漢字の練習の家庭学習を積極的に行っている。周りからは理解されず悩んでいる面もある。頑張り認め、本人と今までと違った方法を考え、まず、家庭学習を続けながら、楽しくて絵のある本を読むことから始めることを目標にした。

○保護者との連携の工夫

学級通信である「すてっぷ通信」を通じて保護者との連携を行ったことで、保護者の気持ちを知ることができ、また、学級や個人の活動の様子を伝えることができた。そのことで、より細かな「個」への理解を深め、保護者の学級や子どもに対する関心を高めることができた。

保護者の方へ これまでのお子さんの活動に関してご意見等ありましたら、お願いします。
○相手の事、自分の事、じっくり考え、見つめる機会を与えて下さった事に感謝します。この授業は、私の子だけでなく他の子達にも、効果なりとも必ず、心に残った思いがあると思います。心の成長に励みます。伊波先生、お褒め様でした。そして、ありがとうございました。

○教師間の連携の工夫

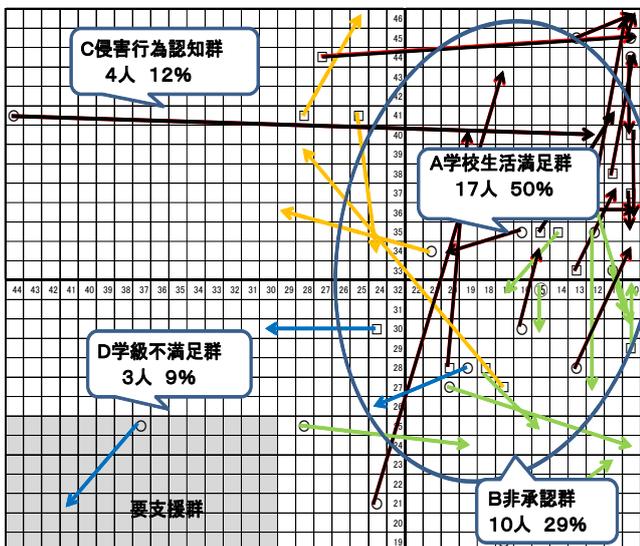
教師間の連携については、年度初めに共通理解を図ることで、教師の意識が高まり、特別支援に関する様々な情報交換が行われ、より良い対応につながっている。また、本研究の授業実践で使用した絵本の読み聞かせも、ある学級の取り組みを見て、その学級の担任と情報交換を行い、再度検討し教材化したものである。お互いの意見交換の中で、同じ教師という立場で共感しあい、様々な考え方やアイデアを共有することができた。このような教師間の連携が、お互いの技術を高め、生徒へのより良い支援につながることを改めて実感した。

3 具体仮説3の検証

自他理解につながる学級活動や自己実現に向かう段階的な支援を取り入れることにより、違いを受け入れ尊重し合う人間関係力を育み、自己の力で目標を達成させる姿勢を養うことができるであろう。

(1) 人間関係力を育む活動

①Q-Uアンケートによる生徒の変容の分析



学級満足度尺度結果の変化（5月～7月）

5月実施と比べて、A・B・C・D群の値は、あまり変化していないが、全体的に、右上がりの円形から縦型になり、7月現在においてルールが確立しているが、生徒の意欲には大きな差が見られ、人間関係はまだ希薄な面がある。実際、友人関係のトラブルが発生しており、そのトラブルに関係した生徒が非承認群や学級不満足群の方向へ変化している。

学校生活満足群の属する生徒は、全体の50%で前回の47%もかなり高い数値であったが、さらに上回っている。また、対人関係が良好になり、認められている意識の向上した生徒（右上がりの矢印）は全体の約3分の1にあたる35%おり、トラブルが発生した生徒を除くと、これまでの人間関係力を育む活動により、多くの生徒が満足群へ移動したと言える。

今後、さらに人間関係力を高める活動を進めながら、個の声に耳を傾け、認める言葉かけや支援を行い、より良い学級づくりを行っていきたい。

②自他理解につながる学級活動

学級活動においては、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを取り入れ、自他を肯定的に見る活動を展開してきた。活動を通して、自他理解を深め、コミュニケーション能力などの社会性や人間関係力の育成を図ってきた。

○この活動を通して自分が変わったことは何ですか。

- ・相手の立場に立って言葉を使う（行動する）ことができた。10人
- ・自分のいいところ（自分を見る目）がよく分かった。10人
- ・自分や他人への考えが変わった。
- ・相手とコミュニケーションとれるようになった。
- ・友達づきあいが良くなった。
- ・今まではできないことがよく見えていたけど、自分に自信が持てるようになり、心がかかるようになった。チャレンジすることが多くなった。
- ・もっと元気・勇気・明るさをもって学校生活を送れるようになった。
- ・人と一緒に話すのが楽しくなったし、他人の良さを知ることでもみんなの違いがわかった。これからも、いいところをいっぱい見つけたい。

③道徳

道徳においても、相手の立場に立たせ、考えさせることにより、「違い」や「困難さ」を受け入れること、認め合い、補い合うことの大切さに気づかせることができた。

ア「わたしのいもうと」

登場人物それぞれの立場に立って気持ちを考えさせた。

例1：生徒ワークシートより

【いもうと】いもうとは、寂しさとつらさ両方があったと思います。

【いじめている方】いじめられている方の気持ちをあまり考えてないと思う。

【お母さん】心配で心配でたまらなくなったと思う。

【お姉さん】いじめた子たちを見て複雑な気持ちだったと思う。自分の妹をいじめていた子たちがどうしてゆうゆうと学校に行っているのか。妹はこの子達のせいで、学校に行けなくなったのという気持ち。

例2：生徒感想より

言葉が少し違っていても「その言葉はどこの？」などとみんなが受け入れていけばきっと妹はいまごろ楽しい生活を送っていたんじゃないかと思います。

イ「他人らしさと自分らしさ」

3つの絵本から、気持の変化やより良い人間関係やより良い自分であるための考察を行った。

生徒感想より

○いろいろな性格や個人差もあるけれど、みんないいものをもっているんだなあとと思った。

○相手の良さを見つけ、相手ができないことはお互いに助け合っていきたい。

★このように意図的に、学級活動と道徳を組み合わせることで、自他理解から自尊尊重につながる生徒相互の人間関係力を向上させる活動を行うことができた。今後、人間関係力の実践力につなげるために、継続的に取り組む必要がある。沖縄東中の年間計画に基づき、「人間関係力の向上」を目標にした学級活動・道徳の年間計画を作成し、今後継続して取り組んでいきたい。(P60 人間関係力を育む道徳・学級活動の年間計画 参照)

(2) 自己実現に向かう姿勢を養う学級活動

自己判断シートによるアンケートは、教師が「困難さ」の細かな判断をするためだけでなく、生徒自身の「良さ」を伸ばし、「困難さ」を改善し、前向きに自分自身で「自己実現」に向かう力を育成したいという思いからも実施した。アンケートを行う

ことで、自分自身の「得意」「苦手」を整理し、教育相談を進めることで、「苦手」(困難さ)を改善する手立てを考え、実践に移すことができる。

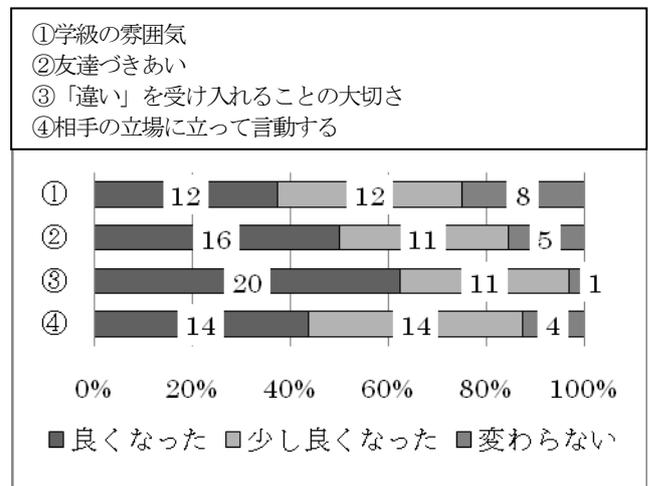
学級活動の中の題材「自己実現に向けて」では、大きな目標(夢)から段階的な小目標を立てる方法3ステップを学ばせ、さらに、自己の能力の向上のための3コースは、実際に取り組める活動を考えさせた。「3ステップ3コース」で目標を立て、実際に行動を起こすことで、自分の夢への道と目標へ近づく自分をイメージすることができ、自信となり、自己実現への動機づけとなった。

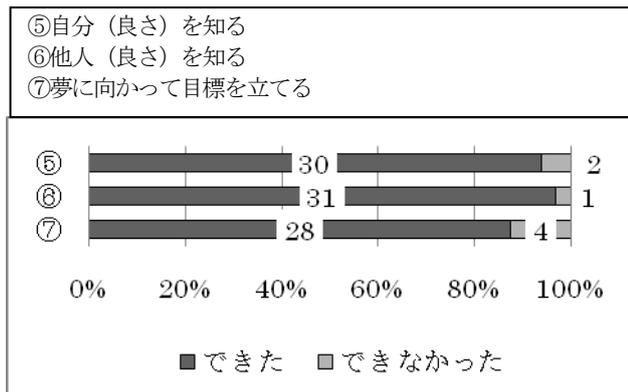
○夢を達成させるために大切なことは何ですか。(例)

- ・目標を持つこと 11人
- ・努力し、あきらめないこと 8人
- ・夢に向かって、目標を一生懸命頑張る
- ・まずは小さい目標からはじめ、大きい目標を頑張る
- ・大きい夢をもって夢に向かって一歩ずつ進めるよう努力する
- ・小目標や今できることから頑張る
- ・その夢を叶えるために、今、自分にできることをやっていくことが大切だと思います
- ・夢に向かって小さなことでもコツコツやっていく
- ・今やることを一生懸命頑張る
- ・努力して得意なところは伸ばす、苦手なところはチャレンジしていくところ

(3) 具体仮説3の全体的な考察

検証授業終了後に、以下の項目で事後アンケートを実施した。





①学級の雰囲気では、75%の生徒が「良くなった」と答え、②友達づきあい、③「違い」を受け入れることの大切さ、④相手の立場に立って言動するにおいては、80%～90%以上の生徒が「良くなった」と答えた。また、⑤自分の（良さ）を知る⑥他人の（良さ）を知るでは、90%以上の生徒が「できた」と答えており、自他理解につながったと言える。①～⑥の結果から、違いを受け入れ尊重し合う人間関係力を育むことができたと考える。

⑦夢に向かって目標を立てる、においても約90%の生徒が目標を設定することができた。この結果から、自己実現に向かう段階的な支援を取り入れることにより、自己の力で目標を設定する力を養うことができたと考える。夢や目標を設定できなかった生徒に関しては、今後、良さの伸長を図るなど、自信ややる気を持たせる援助を行っていききたい。全体の指導としては、小目標から取り組み、充実感や達成感を味わわせ、目標を達成させる力の育成につなげていきたい。

Ⅹ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

人間関係力を育む学級経営を行うために、以下の項目で工夫を図り、研究の成果を得ることができた。

- ・ Q-Uアンケートや自己判断シートの活用による、生徒の実態の把握・支援の方向性の明確化
- ・ 教育相談の実施による「困難さ」の実態把握と支援の実践
- ・ 学級通信による保護者との連携の充実
- ・ ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループエンカウンターなどを取り入れた授業による人間関係力の育成と年間計画の作成
- ・ 自己実現に向かう姿勢の育成

2 研究の課題

今後、人間関係力を育む学級経営をさらに充実させるために、以下のことに取り組みたい。

- ・ 生徒全員を対象にした教育相談の実施と支援
- ・ 学年支援体制による共通理解と支援方法の検討
- ・ 人間関係力を育む学級活動の年間計画の実践
- ・ 自己実現への目標達成の経過の確認とステップアップに向けた学級活動の実践

※「沖縄市では、平成16年4月1日より、ノーマライゼーション理念のより一層の確立を図ると共に障がい者福祉推進の観点より、あらゆる場面において、障がい者を特定して用語を使用するに当たっては『障がい』と表現する」ことに準じて文中表現している。

<主な参考・引用文献>

- ・ 大南英明（編）2006『中教審答申 特別支援教育の解説』 明治図書
- ・ 佐藤慎二（著）2008『通常学級の特別支援 今日からできる！40の提案』 日本文化科学社
- ・ 平山諭（監修）河田考文・大貝優希（編著）2008『“特別支援の基本スキル”がなければ学級担任は出来ない！』 明治図書
- ・ 小林倫代（監修）井上賞子・杉本陽子（著）2008『特別支援教育はじめのいっぽ！』 Gakken
- ・ 河村茂雄（編著）2006『学級づくりのためのQ-U入門』 図書文化
- ・ 河村茂雄（編著）2006『Q-Uによる特別支援教育を充実させる学級経営』 図書文化
- ・ 長田 清（著）2008『解決志向アプローチ～生徒をエンパワメント』 沖縄県総合教育センター研修会資料
- ・ 新里健・島袋有子（著）2008『やってみようソーシャル・スキル・トレーニング33』 グリーンキャット
- ・ 上野一彦・岡田智（編著）2006『【特別支援教育】実践 ソーシャルスキルマニュアル』 明治図書
- ・ 吉澤克彦・津村誠（編）2006『エンカウンターで学級づくり12か月』 明治図書
- ・ 國分康孝（監修）國分久子・片野智治（編）1997『エンカウンターで学級が変わる』 図書文化
- ・ 田中信生（著）『そのままのあなたが素晴らしい』 ダイアモンド社

★人間関係力を育む道徳・学級活動の年間計画

★人間関係力の育成に関連 ☆自作教材(道徳)

学期	月	道 徳		学 活		学校行事		
		【主題名】	資料名	内容項目	題材名		内容項目	
1	4	【心と形】 ☆言葉の力		2-(1)	中学生になって	A学級会	始業式、入学式 新入生オリエンテーション 家庭訪問	
		【日本の良さ】 海棠と菜の花		4-(9)	生徒会入会式	B生徒会活動		
		【男女の理解と協力】 ★班でのできごと		2-(4)	学級の活動目標	A学級会		
	5					★Q-Uアンケート 特別支援アンケート実施	A進路・学業	校内陸上大会 生徒総会 不審者対策訓練
		【責任の自覚】 増えた塩ます		1-(3)	生徒総会に向けて	B生徒会活動		
		【個性の尊重】 ☆他人らしさと自分らしさ		2-(5)	生徒総会	B生徒会活動		
	6	【命を見つめ命を支える】 決断！骨髄バンク移植第1号		3-(2)	不審者対策訓練	A心身の健康・安全	中体連夏季総体 中間テスト	
		【正義を貫く】 ☆わたしのいもうと		4-(4)	★ミックス伝言ゲーム コミュニケーション能力の向上	A学級会		
		【心がけたいこと】 小さなしつけ		1-(1)	学習の目標と心構え 読書活動の充実	A進路・学業		
		【平和の尊さ】 ☆戦争から学ぶ		4-(10)	★いいところ探し 他者理解・自己受容	A学級会		
		【友情の尊さ】 ★ちいちゃんのつめ		2-(3)	進路適性検査 (E P I C) 進路学習について	A進路・学業		
		【奉仕の精神】 楽寿号にのって		4-(5)	★この人は誰でしょう 自己理解・自己開示	A学級会		
	7	【人間への愛】 ★ヒロシマのうた		2-(2)	健康で安全な生活をしよう (夏休みの計画)	A心身の健康・安全	三者面談 1学期前半終了	
		【節度ある生活】 山に来る資格がない		1-(1)	心身の健康について (教育相談旬間に向けて)	A心身の健康・安全	1学期後半始業 期末テスト 地区陸上大会 1学期終業式	
	【よりよい社会を目指して】 ★無人スタンド		4-(3)	★自己実現に向けて 目標を立てる	A進路・学業			
	【やり抜く心】 九番バッター		1-(2)	地区陸上大会に向けて 学習の目標と心構え	C学校行事			
	2	9	【権利と義務】 ★選手に選ばれて		4-(2)	学業生活を見直そう (1学期の反省)	A学級会	
			【生命の尊さ】 ☆母体内で生きる命		3-(2)	2学期の学級作り	A学級会	
			【家族愛】 ☆童神にこめられた思い		2-(2)	★大事な意見は 話し合いのスキル	A学級会	
		10	【みんなのために】 ★合唱コンクール		4-(7)	校内合唱コンクールの取り組み	C学校行事	秋休み 2学期始業式 合唱コンクール
			【集団の中での協力】 ★全校一を目指して		4-(1)	働く人々に学ぶ (職業を持つことの意義)	A進路・学業	
【かけがえのない自然】 沖縄の貴重な生物				3-(1)	★トラストワーク 相手を思いやる気持ち	A心身の健康・安全		
【世界の子どもたちとともに】 ☆マンホールチルドレン				4-(10)	自分を知ろう (E P I Cの結果)	A進路・学業		
11		【働く喜び】 山奥の請負い配達屋さん		4-(5)	★あなたならどうする 葛藤場面でのコミュニケーション法	A学級会	中間テスト 校内マラソン	
		【正義を求めて】 ★正義ってなに？		4-(4)	校内マラソンに向けて	C学校行事		
		【明るい家庭】 母はおしけれ		4-(6)	生徒会役員選挙	C学校行事		
	【誠実な生き方】 デンさん		1-(3)	★私のストレス対処法 (三者面談に向けて)	A進路・学業			
	【優しい心配り】 ★「し」をかくひ		2-(2)	冬休みの計画と過ごし方	A心身の健康・安全			
	【自然のすばらしさ】 木の命 木の心		3-(1)	新年の目標を立てよう	A学級会			
1	【生きることの大切さ】 樹と少年		3-(2)	★友達の将来の希望を知ろう 他者理解	A進路・学業	2学期後半始業 三者面談		
	【集団生活の向上】 ★席替え		4-(1)	自分を生かす職業	A進路・学業			
	【ふるさとに生きる】 ぼくのふるさと		4-(8)	★ブラインドデート 男女相互理解	A心身の健康・安全			
2	【生きがいのある人生】 シュリーマンの夢		1-(4)	先輩の進路に学ぶ(1)	A進路・学業	学年末テスト		
	【国際社会への貢献】 日本から来たおばさん		4-(10)	将来の設計と進路の計画(2)	A進路・学業			
3	【広い心】 二度と通らない旅人		3-(3)	卒業式を成功させよう	C学校行事	卒業式 修了式 離任式		
	【自主と責任】 父のひとこと		1-(3)	もうすぐ2年生	A学級会			